



203号

今月の発信——あごら鳥取

“北京”が鳥取に 翔んできた

中国の女性を鳥取に招いて ◆ 芦谷美鈴

北京女性会議・プレ会議に参加して ◆ 石井ふき子

シンポジウム「北京会議への道」に参加して ◆ 門脇邦子

興奮しつつ混乱しつつ ◆ 加藤洋子

「日中友好」を説いた議員さんを落とした私たち ◆ 大畑ひとみ

ぐんと近づいた北京 ◆ 原 克子

「女の思想」を持った中国の女性たち ◆ 坂出節子

“大陸の心”に感動 ◆ 岸本こすえ

人と人のつながりの大切さを知る ◆ 辻 照子

“政治家を尊敬する中国人”に感銘 ◆ 横田正光

“中国の三女性”のお伴をして ◆ 斎藤千代

頌 春

ご清祥をお祈りして、新年のごあいさつを申し上げます。

政治「改革」の美名の下に、自衛隊も安保もゆるぎない位置を築き有権者に問うこともなく年金・税制・米自由化が決まりました。

この暴挙を黙視すること、あきらめることは、悪政に加担すること。

今年は、多年女性たちが蓄積してきた思想や政策をかたちにして流れを変える力にしたいと願っています。

一九九五年 正月

古巣の近くに戻りました

〒160 東京都新宿区新宿一―九―四

03 || 3354 || 3941

FAX 3354 || 9014

あ い ら

目次

鳥取に中国の三女士を迎えて

中国の女性を鳥取に招いて 芦谷美鈴 2

北京女性会議・プレ会議に参加して 石井ふき子 4

シンポジウム「北京会議への道」に参加して 門脇邦子 17

興奮しつつ 混乱しつつ 加藤洋子 21

「日中友好」を説いた議員さんを落とした私たち 大畑ひとみ 24

ぐんと近づいた北京 原 克子 26

「女の思想」を持った中国の女性たち 坂出節子 27

「大陸の心」に感動 岸本こずえ 28

人と人のつながりの大切さを知る 辻 照子 29

政治家を尊敬する中国人に感銘 横田正光 30

「中国の三女性」のお伴をして 斎藤千代 31

意見／異見 捨て場のない核のゴミ 土井淑平 36

めじやーなりすとのめ 「お嬢さん」という言葉 広野彩子 38

気になる英語 オールタナティブ 奥川 睦 40

あこらめいと 「風」を生む人 芦谷美鈴さん 前田享子 42

ペルーの女8 第三章 フェミニズムの芽生え(2) C・アンドレアス／サンデイ・サカモト 44

女ひとりドケチ旅3 辻みゆき 54

看護婦・光と影20 後藤登茂子さん(1) 増田れい子 64

あこら読書室 「はつらつひろこのかけ足日記」 ほか 72

TOPICS 「介護法」要綱まとまる ほか 74

NEWSLETTER 第四回世界会議 第3号 79

女から女たちへ 年賀メッセージ 85

中国の女性を鳥取に招いて

芦谷 美鈴

「あゝ」の東京事務局から「北京会議の中国側の窓口の方を日本に呼び出したのよ。鳥取で会を持たない？」との提案がありました。長年「あゝ」鳥取の窓口を共に支えてきた前田享子さんと相談し、即座に「やろやろ」と返事をしました。私たちは塾で、毎日子どもたちと接する仕事をしているので、「世界会議のまとめ役を務める人ってどんな人か見てみたい」「子どもたちにも世界的に活躍する人を見るチャンスを提供したい」と思ったのです。一人の人の出会いが人生を大きく変えてしまうことがあるのを実感しているからです。自分の人生を切り開いていくのに欠かせない人との出会い。出会うべき人と出会うのも人の能力の一つ。だとするならば、教育にかかわっている私たちのできることは、そういう場とチャンスを提供することではないだろうかと思っているからです。そんなチャンスが突然訪れたのです。願ってもない話です。中国側の日程や費用もわからない。でも、与えられたチャンスはできる限りのことをして生かしたいと、とつさに判断したのです。

思い切つて開いた鳥取の会議に集まったのは五十人あまりでしたが、中国と日本からの問題提起は、私の中の長年のわだかまりを突き崩しました。国連が、日本の女性差別を戦争の原因

と指摘していたという話もショックでした。これまで私は、女性問題は相手の様子を見ながらビクビクして話を切り出す、差別される側が差別している側に氣を使つて提案していく、という場面を何度も目撃して、こんなおかしいことがあるだろうか、鳥取での女性問題を取り巻く実態をへあごらの名前を出す度に実感してきました。しかし、それは鳥取だけの問題ではなく、世界の多くの国でもそうであるということがわかりました。

北京会議はアジアで初めて開かれる世界女性会議です。しかし、日本が戦争責任を曖昧にしたままで世界会議が開かれる。様々な戦争責任をそのままにして、事実さえも隠そうとする日本政府。そんな政府を持つてしまっている私たちの責任は何だろう？ それを問い直したいという気持ちもありました。とりわけ従軍慰安婦問題は、わが国の女性が、自分の周りの男たちに、されるがままの差別を許してきたことと繋がっている。自分が踏みにじられることを許してしまつたお陰で、男たちは、他を踏みにじることを安易にしようという癖を身につけた。それが戦争という非常事態に牙をむいた。自分が女として尊厳を持つて生きていないことが他国の女性を踏みにじり、踏みにじつた後もなお、その責任を曖昧にするという事態を生んでいる。

強くなつた円を手に、日本の女性たちは世界に繰り出していきます。北京会議でも多くの日本女性が参加するでしょう。「札束で両ピンタを食らわすような真似だけはすまい」という思いと、「富める国が外国にお金を落とすことはその国の経済を潤すことになる」という思いが私の中で揺れます。友好を深めるはずの国際交流が、ひんしゆくを買う話は山のようにあります。自分の国の歴史を学び、アジアの国々の歴史を学び、今自分が何をしなければならぬ立場なのかを学び合つていれば、政府がしない戦争責任のほんのわずかな一役を代わつてできるかも

しれません。マージナルな場から「教育」にかかわっている私の仕事も、また一段とくつきり見えてきた気がしました。

この国は、歴史的な事実さえ学校教育で教えてはいない。当日参加した高校生が「私たちは学校で自分の国がしたことを習わないで、他国の人に教えられる、こんな恥ずかしいことはない」と感想を言いました。この言葉を胸に刻んで、その恥ずべき国の一人の女性として、どう参加したらいいのかを学び合いたいと、今しみじみ思っています。

北京女性会議・プレ会議に参加して

石井ふき子

九五年の夏、世界中から注目を集めている催し「北京女性会議」が行われる。新聞などでも時々この会議についての話題が取り上げられているという。確かに、私も数人の友人から話を聞いたことがあったように思う。ただ、私の場合、「ふーん。一体どんな会議？ 世界的に大事な話題のうち、女性問題が取り上げられる会議だろうか。フェミニズム運動と何か関わりがあるのかな」などと思っても、何となく聞き流しているから、遠く北京で行われる会議が、自分の暮らしの中に近づいてくるほどではなかった。ところが、一二月末予定のシンポジウム「お茶の間会議は国連会議」の企画案を考え、パネラーの一人として鳥取県から芦谷美鈴さん

をお招きすることを決めた途端に、この「北京女性会議」が私にとつて身近な問題に変わった。芦谷さんの基調講演の内容を、一〇月二七日に鳥取市で行われる「北京女性会議・プレ会議」に決めてしまった後で、私は自分が「北京女性会議」のことを何も知らないことに気づいた。最初に浮かんだ問いは、「北京女性会議って、いったい何？」だったほどである。

まわりの友人に聞きまくった結果、私はこの「北京女性会議」が「世界女性会議」の第四回にあたり、会場が北京だから「北京女性会議」と呼ばれていることを教えてもらうことができた。しかし、この会議は何を話し合う会議なの？ 何で北京なの？ という質問に対するはつきりとした答えは得られないままだった。そんな時、友人の次の提案を聞いて私はビックリ。

「〇〇さんが行くって言うていたから、聞いてみたら？」

「どうして〇〇さんが行くの？ 彼女はフツウの人だよ」「世界女性会議は誰でも出られるんだよ」「でも？」「もちろん。たぶん、女性会議だけじゃなくて、国連のNGOの会議はどれも参加自由のはず。世界中から誰でも参加できる。フツウの人が質問もできるんじゃないかな」私はいよいよビックリして芦谷さんに電話をかけた。「北京女性会議って私でも行ける会議なの？ 質問ができるってホント？」「そうだよ」「何で？ どうしたの？ 何でそんなこと聞くの？」「だって、日本の議会は質問できないでしょ。イヤな顔されるんですよ？」「そういう話はよく聞くね」「北京会議では、質問してもイヤな顔されないのかな？」「と思うよ」「ふーん。主催者は誰？ 何で北京なの？ それに……」「布紀子ちゃん、面白い！ 今、浮かんでる質問を全部書いてみない？ そして質問を全部持つて鳥取のプレ会議においでよ」「えっ」「会場で質問をする時間を作るからおいでよ」「うん。行こうかな」

こうして私はわけがわからないまま、鳥取のプレ会議に参加していた。

鳥取の会議は、〈あこら鳥取〉（あこら）という全国ネットワークの鳥取拠点）が企画。〈あこら〉は、女たちを取り巻くさまざまな問題に深く長くかわつてゐるひろば的ネットワーク。二〇〇号も続いている機関誌「あこら」を手にしてみると、各地の〈あこら〉のメンバーが持ち回りで作つた特集号から、時々テーマに基づいて全国からさまざまな原稿を集めるという特集号まで、地域性や個人の主観をストレートに盛り込める内容が工夫されていた。私は、二〇年以上、広く長く活動を続けている原動力が、「一人ひとりの気づきやささいな出来事を大事にしていること」ではないかと感じている。また、呼びかけ人の斎藤千代さんは、第一回から世界会議に出席したり、湾岸戦争の時にイラクを取材するなど、国や問題の枠にとらわれることなく、深く長く女たちに問題提起を続けているように見受ける。今回のプレ会議も、斎藤さんの提案を芦谷さんたちが受けて実現。北京からいらした三名の女性と斎藤さんが鳥取を訪れるらしい。私が当日までに知つたことは以上まで。私は当日を迎えた。

会議は、芦谷さんの紹介を受けた斎藤さんが世界女性会議の歴史について語るところからはじまつた。第一回メキシコ会議は一九七五年。一九七二年の国連総会で、「国際女性会議なるものを開こう」という決定が下される背景には、一九四五年に国連が下した判断「第二次世界大戦の原因は差別にある。中でも二つの差別——一つはドイツの民族差別、もう一つは日本の女性差別にある」が大きく影響しているらしい。女性差別撤廃を具体化させるために、国際会議開催が決定した。斎藤さんは、「英語が満足に喋れなくても、大した力のない主婦でも、どうしてもその場にいたい」という思いに駆られ、メキシコシテイの会場に出かけて行つたのだ

そうだ。彼女は遠く南米の地に立つたことがきっかけで、南北問題の影に幼女売春の深い問題が根ざしていることをはじめ、豊かさと貧しさの対立、権力者と非権力者の対立など、人々の間にある大きな問題の存在を知識ではなくからだで知ることになったと語った。ただし、当時の周りの目は、一般主婦の冒険的行為に対して、大変冷やかだったようだ。

第二回は、一九八〇年コペンハーゲン会議。この会議では、国連とNGO（国連が政府の連合体であるのに対して、民間団体の総称）との間の連帯が大変うまくいったそう。オープニングの時にファンファーレとともにさまざまなNGO団体が総計五〇万人の平和署名を集めて、国連に提出をした。またたとえば、チリで世界的な問題があれば、即座に支援の署名を集めて国連の会議場に持つていき、国連側がそれを寛容に受け止めるといった風なことがいくつも起こるなど。そして、フェミニズムの先進国の男と女の問題の基本として、南北問題やエコロジーの問題などさまざまな問題が取り上げられ、深い討論が繰り広げられ、「エコフェミ」という言葉が生まれ出るなどの展開でも話題になった。

第三回が一九八五年ケニアのナイロビ。パワフルなエネルギーあふれる会だったという。七〇〇〇から八〇〇〇人というアフリカのいろんな地域の女性が民族衣装をまとって参加。解放戦争を戦いぬいた女の人たちの堂々とした歩き方と、地母神のような人が集まって踊ったり歌ったりする姿は迫力だったようだ。ただアフリカらしいというか、参加したい会場を探してもなかったり、あつても別のイベントをやっていたり。あちこちで催されたワークショプの内容は多彩で、「毎日料理がとて大変」という女性に、「一つのカマドで料理するんじゃないやなくて、二つのカマドを使うとすごいラク」というようなアドバイスがあるなど、日常の暮らしで

直面している問題を女たちが気軽に話し合える場も多かったようだ。また、アフリカが抱えている問題として、アメリカの軍隊がアフリカの港に入ってくると、村じゅうの女たちが移動して売春に走ることも語られた。アフリカでエイズが氾濫する原因の一つはこんな状況にあったことが、今になってみるとよくわかる。女がお金を手に入れる方法として、売春が最も確実だというのが、第三世界の状況だった。全体会議としては二〇〇〇年にむけての行動計画が採択され、各国・各分野での取り組みが提案された。

そして、第四回が来年の北京会議である。ナイロビ会議終了時には、次期会議がいつ・どこで行われるのが決まっていなかったのだそう。結局、一〇年後に当たる九五年に第四回が行われることになった。間違はなくこの一〇年は世界的にとっても大きな意味を持つ。高度情報化世界になり、さまざまな改革など世界規模の模様替えがあつた後での会議にむけて、いま北京では準備が進められている。ここで、開催国には多額の負担費用が必要になるのだそうだが、中国政府は「世界中の人に中国のことを知ってもらいたい」「中国の国民に世界のことを知らせるチャンスを提供したい」と長期的展望を描いて、国家予算を組み、立候補にふみきつたという。日本の女性活動家たちも、いち早くそうした中国の動きを察知し、自国の立候補推進よりも、となりの国中国の支援をめざす動きも出たそう。

さて、北京会議の大きなテーマとして、ナイロビで決めた行動計画の実施状況の把握・検証と、次期行動計画の採択は必須課題だが、そのほかさまざまな提案ができるらしい。だからこそ、この場にも北京から来た三名の女性がいたのだ。「一人でも多くのさまざまな価値観を持った女性たちと、情報交換を重ね、一緒になつて北京会議をよいものになりたい」という思いで

来日したようだ。そして、斎藤さん（八月に中国へ行つて現地の様子を確かめている）の提案によつて、北京からいらした張静さん（中国婦女連合会国際連絡部副部長）が「中国での準備進行状況」をわかりやすい日本語で語つてくれた。

会議運営組織

- ① 大会委員会（外務省の管轄。海外的な指針など）
 - ② 情報委員会（内務省の管轄。国民の意識や関心を高めるなど）
 - ③ 行政財務委員会（北京市役所の管轄。会場の準備など）
 - ④ NGOフォーラム（中華婦女連リダーなどが担当。世界中の関心を高める）
 - ⑤ 安全警備委員会（治安部の管轄。安全対策など）
- 参加者・動員予定数

- ① 政府代表団 四千人
 - ② ジャーナリスト 三、四千人
 - ③ NGO 海外からの参加（目標二万人）国内の女性（目標五千人）
- 会場

- ① 国際会議場（政府間会議の会場）
 - ② 体育館・体育場（NGOフォーラム）
- ありとあらゆる場所を使つて、大小一五〇〇以上の分科会が開かれる予定。希望者は誰でもワークシヨップなど開催することができるし、展示や資料の配布もできる。

★できるだけ長く準備して、自分たちなりに深めた内容のワークシヨップや資料を持つていく

ように心がけた方がいいのでは……と斎藤さん。フツの人のフツの感覚を大事にすることと、その場限りのミーハーな感覚で物事をすすめてしまうことはちがうということではないかと私は思った。また、当日はテントなどを使つて、あちこちにバザー的な出展店舗が出るらしい。日本人の買物好きは、途上国の支援になるなどメリットは多いというが、同じ買物をするのならば、どんな国のどんな人がどんな風に作つてもつて来た物なのかなどを確認しながら手に入れることで、ただ買うよりも数倍お互いの心を豊かにしてくれることを感じている。

入国資格

国連憲章を守り、中国の主権を尊重する人。

ビザ申請は、参加登録証を持つて中国大使館へ提出。

宿泊先

会場周辺のホテル八〇か所、二〇万人分を手配済み。

一つ星（日本円で約二〇〇〇円〜五〇〇〇円）から五つ星（二万円前後）までさまさま。

★一つ星でも、日本のビジネスホテル級だというが、できれば日本人は三つ星以上を予約して欲しいとのこと。なぜなら、アジアの他国など、貧しい国の女性の参加を応援するためだからという。私は、こういう提案を聞くことで学ばせてもらえると思った。

運営費用

国連から若干の援助金が出る程度で、ほとんどは中国政府が負担。

国民に世界のことを知ってもらいたい、世界中の人が中国に対する理解を深めてくれれば……という思いから開催を決意したらしい。

申し込み

ニューヨークの国連NGOフォーラム事務局。

★申し込み書に必要項目を英文で記入して五〇ドルとパスポート用の写真二枚を添えてニューヨークの事務局まで送る。あるいは、日本語と手数料二〇〇〇円を追加して〈あこら〉に送れば、英文に直す等その他の手続きは〈あこら〉が請け負ってくれる。

私は、政府会議よりもNGOフォーラムが大規模なことを知って驚いた。中国の方たちは、二万人のイベントの準備を誠心誠意で進めながら、外国からさまざまな人が訪れる日を心待ちにしているようだ。斎藤さんの話「今回利用するホテルは、組織委員長が一軒一軒訪ねて歩いて決めた」などが印象的である。日本の旅行会社の中には、この会議に便乗して一儲けしようという考えで、ツアーを組むなどの動きも出ているようなので、利用にあたっては注意が必要だという感じを受けた。こういった商売企業の動きこそ、今の日本の現状をわかりやすく示しているような気さえする。

私は、偶然のきっかけから、北京女性会議にどんどん近づいている自分に気づいた。しかし、もし、本当の意味でこの会議に近づきたいと考えるなら、もつと、もつと、アジアの女性たちがむきあっている現実、歴史的事実を知る努力が必要なのかも知れない。相手の国のこと、目の前にいる女性たちが置かれている状況も知らなければ、心と心を通わせ合うことは不可能だろう。私は、できる限り多くの方に、自分がこの日知りえた事実を知って頂きたいと思うようになっていく。張静さんの話の中から、強く印象に残っている話をまとめてみたいと思う。

*

私が日本語の通訳の勉強をしたと言った時、父の反対は激しかった。祖父が日本軍に殺されたからだ。「今後、祖父のような人が出ないためにも、是非日本語を学ばせたい」と、高校の教師までがわざわざ我が家に来て父を説得の末、やつと許可を得ることができた。

日本語を三年間学び、通訳として七年間、さまざまな日本のグループを案内してあちこちをまわった。ある日、東北の瀋陽駅から下りた時、日本人男性の一人が「どちらが北ですか？」とたずねた。「あちらですよ」と教えると、北の方をむき、頭を地面に打ちつけて号泣した。その人は、戦争中に瀋陽の北で人を殺していたと語った。「本当に申し訳ないことをしたと悔やんでいる」と泣く。同じようなことは何度もあり、私は折をみて、父にそれらの報告をした。父は、「なるほど。侵略をすることがどういうことなのか、やっていた本人はわかっていなかったのかも知れない。国民の一人として天皇に孝行する、自分の国を守ることを教育されたとしたら、一生懸命戦って人を殺すことが当たり前になることもあるのだろう。また、戦場に夫や子どもを送りだした日本の女性たちも、インフレや他国の攻撃を受けた結果、戦争の中ではいろいろ大変だったことだろう。日本国民の大変さもある程度はわかってきた」と、私が日本語を学び、通訳をすることの意味を深く理解してくれた。その後、一年間日本に単身赴任した時にもかなり協力してくれた。

しかし、日本では平和教育、若い世代への教育が不十分なように思う。北海道のノサツプ岬から沖縄まであちこち廻ったけれど、たくさんさんの平和記念館のどこにも中国侵略の写真はなかった。中国では、日本国が原爆でどんな惨事にあつたかを学校教育の中で学んでいると

いうのに、日本では中国にどんな惨事を引き起こしたのかを学ぶシステムがないのはどうい
うことだろう。中国では、自分たちが被害にあつたことだけではなく、客観的に事実を見つ
めることができるようになっていいるが……。また、次の世代の平和を願つて、私のように日
本語を学ぶ者を一生懸命支えている中国の親たちのことを、日本の若者たちはどのように考
えているのだろうか。

私の生き方に大きな影響を及ぼした一つの事件がある。戦争賠償金にまつわる話だ。七二
年日中国交回復の時に、中国政府は戦争賠償金放棄を共同声明に発表した。国民の中からも
驚きの声が上がつた。当時の外相周恩来は、「確かに戦争賠償金はもらうべきだし、大金だ
けれども、この大金は日本の庶民の人の税金が出資源だ。昔の人のあやまちを、今の日本国
民に覆いかぶせていいのだろうか？」と発表するとともに、「もし多額の賠償金を得ても、
日本が二度と戦争をしないという保証にはならない」と、平和と友好はお金で得られるもの
ではないことを国民に伝えようとした。今後、戦争が悲惨なできごとを巻き起こさないよう
に、長い目でみて前向きな方法を検討しようと教えてくれた。私は彼の話に感銘を受けて、
以後、通訳の仕事をしている時などに、自分たちにとつて辛かつた話のしかたに気をつける
ようになった。日本人を責めるつもりはないことを伝える努力をした。ところが、中国人は、
各自が平和的な関係作りに対して前向きな姿勢で望んだのだが、日本人には、私たちの真意
が少しも伝わらなかつたのではないかという声がどんどん上がっている。

八四年中国建国三五周年の時、中国は、三〇〇〇人の日本人青年を招待した。実は、中国
内部でも論争があり、「なぜ、貧しい中国人が多額のお金を出して招待してまで日本人を招

く必要があるのか」と議論になった。だが、長い目でみて中国への理解を深めるためにもと、国債を発行してまで実行しようという決定に至る。ところが訪れた日本の若者の反応は、どちらかというと、「中国人はお金がないから、日本を狙っているのではないか」といったような印象を与える態度が多く、中国人はがっかりしてしまつた。その人たちも、今ではいくらか年を重ね、以前よりは多くの理解を深めてくれるものと信じていたが……。

その後、しばらくして、私は約一年間、日本へ学びに来ることができた。日本側がお金を出して学ばせてくれた。これは、中国への理解を深め、平和への道を歩もうとする気持ちの現れではないかと思つて、私も周りの人間も大変喜んだ。今までやってきたことが決してムダではなかったのだと考えようという意見が出ている。

一年間を通じ、さまざまな経験をし、日本人と心も通わせ、また、たくさん疑問や問題点も感じながら、私は中国へ帰国した。最後に起こつたできごとは、今の私の仕事に対する原点にもなっているのだ、みなさんにも聞いてもらいたい。私は、日本で見聞きした平和教育について、私の感じたことを文章にまとめ、それを大学の先生に読んでもらつてみたところ、先生は学内の通信にのせてくれた。その後、この学内通信を読んだ中学の先生が、授業でこの通信を取り上げ、その後、一六〇人の日本人中学生からの手紙が私の手元に届くことになる。読んでみると、「私はこの授業を受けるまで、これまでに日本で学ぶ・働く中国人に対してあまりいい印象を持っていなかったが、この文章を読んで中国人を見る目が変わつた」という内容が多かつた。私は、「自分の書いた文章で、日本の若者たちに伝わるものがあつた、理解を深めたのではないか」と思っている。そして、「いわゆる外交方針など、政

府の固いことではなく、フツの庶民の心と心のつながりが一番大事、率直な意見交換が一番大事だ」と考えを新たにした。そういうことの積み重ねが平和への道だと思っている。

*

これらの話を受けて斎藤さんが語った。

中国はさすが四千年の歴史と十二億の民を持つ超一流の国。大国の度量がある。日本は残念ながら、それだけの度量も思想も持っていない。それは私たち国民一人ひとりの責任だと思う。日本国は、中国との相互理解を深めるためのチャンスとして、三〇〇〇人も若者を招待してもらった。これは、中国にとつては、三〇万人の逆招待を受けても足りないくらいのことである。しかし、私たち日本国は、いったい、中国の人に何をしたいのだろう。私は、九五年の会議の時には、できるだけ多くの人に、中国へ出かけてみて欲しいと考えている。自腹きつても、二〇万円くらいで行けるのだから、安い投資だとは考えられないだろうか。私は、八月到北京に行つてみて、本物の中国を見てもらいたいし、温かい心をかよわせあえたらいいのではないかと思うようになっていく。ところが、残念ながら、今、私が日本の女性たちからよく受ける質問は、「どうすれば他の人よりいいホテルに泊まれるのか」などの質問。もし、出かける女性がいるのなら、本当にした方がいい準備は、アジアの歴史を学ぶこと、そして、私たちがアジアに何をしたいかを勉強することではないだろうか。「自分たちが何をするのか」という答を、一人ひとりが自分の心のうちに、しっかりと持っていくしかないのだと思う。また、マスコミなどでは、来年、戦争終了後五〇年の補償を考えるにあたって、従軍慰安婦問題などの問題を民間人による補償にすりかえて、ことの是非を論議して

いない節がある。「慰安婦」にされた人々が欲しいのは、お金ではなくて名誉の回復。日本国は、「国が慰安婦というような、恥ずべきことをしたのだ」ということを、国会ではつきり発言すべきです。それも、事実をしつかり調べて、国会できつちり謝罪することが大事だと思う。その上で個人に対する補償もする。NGOなど民間が受け持つ支援だけではなく、国が何かすることが大事だと思う。中国だけでなく、アジアの中では、日本の国の態度について、明白に非難し、要求している国もあるが、遠慮している国もあり、声をあげない国、何も言わない国もある。だが、たとえ何も言わない国の人でも、私たちが五〇年前のことを忘れられないのと同じように、あれだけの深い傷をみな誰も忘れられるわけがない。

また、日本の国民については、一人ひとりが、「国が何かをするべき」と責任を押しつけるのではなく、「私が何をするのか、何を応えるのか」という答を明確に持つようにするべきではないかと思う。たとえば、北京女性会議にしても、出かけて行くこと以外にも、宣伝面、運営面、いろいろな協力のしかたがあると思う。私たちのネットワークへあこらも、長年のかかわりや体験を活かして、ノウハウその他を伝えて行きたい。また、具体的に身体を動かしてできることを提供していくつもりだ。中国の人のまごころに応えるためには、お金だけではなく、私たちのまごころを伝えることが大事なのだと思う。単に札束をまくのではなく、多角的に協力していけるように、私たちもできることを検討していきたい。みなさんのご協力・ご理解を広げたいと考えている」

*

張静さんら、三名の女性のナマの声を聞けたことは、私の今後の生き方を考えた時に、必ず

何か影響が出て来るにちがいないという気がする。少なくとも、あまりに何も知らない自分にシヨックを受けている。いったい、私は何をどう考え、どのように暮らせればいいのだろうか。周りにいる人たちに、これらの話を伝えてみようとしたところ、会話が進まないことにも、シヨックを感じた。自分たちの国が何をしてきたのか、何をしているのかを知らずに、毎日を暮らしている日本人が、私を含めて多いということなのだろうか。張静さんは、日本の平和教育のあり方に批判的なようだったが、では、現実になんという教育の方法があるというのだろうか。？は増えるばかり。今後、何かよい機会があれば、できるだけ、さまざまな国の、さまざまな立場の人のナマの声を聞き、来年の北京女性会議という一つの節目を共有してみたいと、今は考えるようになった。

シンポジウム

「北京会議への道」に参加して

門脇 邦子

斎藤千代さんの「北京会議への道」の話――

一九四五年 国連の「女性の地位委員会」は第二次世界大戦の原因はさまざまな「差別」にあると結論する中から生まれた。特に著しい差別がドイツの民族差別、日本の女性差別であった。

一九七二年 国連総会で世界女性会議の開催決議

一九七五年 メキシコ会議（第一回世界女性会議）——南北問題、南北対立

一九八〇年 コペンハーゲン会議（第二回世界女性会議）——エコロジーとフェミニズム

一九八五年 ナイロビ会議（第三回世界女性会議）——二〇〇〇年へ向けての行動計画採択

一九九五年 北京会議（第四回世界女性会議）——ナイロビ行動計画の実行の点検

第二次大戦の戦勝国が集まり、戦時中の日本での女性差別を分析して、「女性差別がある国が侵略国になる」、だから世界から女性差別をなくすことが世界平和につながる、という結論を得て、女性の地位委員会は誕生したのだった。女性の地位委員会の誕生が日本の女性差別から生まれたということは、日本の女の私にとつて驚きだ。斎藤さんが第一回のメキシコシティ会議へ参加しようとしたら、英語もできないで国際会議へ参加して何になると、故市川房枝さんさえ「無意味」と言つたという。だけど、ずっと「女性問題」についてやつてきた斎藤さんは柱の陰で見ただけでもいいから「女性会議」に参加したいと思つたという。第一回会議からずっと欠かさず参加し続けた斎藤さんのすすめる「女性会議」が来年はアジアで行われる。二一世紀はアジアの女性、中国の女性の時代の予感がするのだが。

●北京会議へ日本人として参加するなら、日本が戦争中、中国、アジアで何をやってきたのか、ちゃんと勉強して、自分なりの結論を持つ必要性を痛感する。そして、以前の斎藤さんのように、柱の陰からでも「北京会議」に参加したい。女性の新しい時代の幕開けに立ち会いたいという気がしてならない。

●中国は第二次世界大戦の日本の戦争責任に対しての賠償請求を放棄した。賠償金は戦争責任のない日本の民衆の税金にほかならないのだから、というのが時の中国の指導者の考え方。こ

のような大陸のおおらかさを持つて中国の民衆を納得させた指導者の存在が、今日の日本の繁栄の一助になつてゐることを、ほとんどの日本人は知らずに生活してゐる。いつの時代も、屈く情報には偏向があるということを前提としておくことだ。

●日本の平和展には、日本の侵略戦争の写真は一枚も見当たらないというのは不思議、という中国の人の話を聞いた高校生は、自分が受けてきた日本の平和教育に対して、「無念」という表現をしていた。「自分の国が戦争でやつてきたことを中国の人から聞くなんて、屈辱的だ」と言つた。私が子どもに伝えられる戦争つて？という問いが残る。これが「私の北京会議への道」だ。

●妻が自分だけのために家事をしないで社会にでることに對して、厭味の一つも言わない夫の話は聞いたことがない。たとえ「俺ほど女に寛大な男は世間にはいない」と家事の分担も厭わずやつてゐる夫の行爲も、妻へのただの見せつけ。夫の意識は男優位、女蔑視觀に変わらぬ。家庭における横暴かつ自分勝手な男の振る舞いの一つ一つにそれは現れてゐる。「女子どもを養つてやつてゐる」という意識だ。日本の男の女性差別意識は本質的に何ら変化はしてないのだ。「女性差別のある国は侵略国として戦争を始める」という第二次世界大戦の教訓は、戦後五〇年経た日本で戦争は終わつてはいない、いつ始まるかわからないということを物語つてゐる。世界平和への道は、女性差別をなくす道、日本の女一人一人の生きる道。私の生き方そのものが世界平和へとつながるのだ。

●王春蘭さん——四万人の郡、花郷（農村の旧人民公社）の郷長（日本で言えば郡長）四四歳。花郷の全員が「万元農家」であることで、現在中国では有名な人。花郷では、いまリゾート

（外国人向け）施設の建設を考えていて、「ゴルフ場」が検討されているという。それを聞いた鳥取の女性たちが「ゴルフ場」はやめたほうがいいと言うと、初めは「大丈夫、大丈夫、中国は社会主義の自由経済だから」と言っていた王さん。しかし、重ねて「ゴルフ場」の弊害（日本の資本の無秩序な介入と「買春」はセツト）を訴えると、「もう一度検討しなお願いします」と約束してくださるのを知り、日本の田舎のただの女が中国の政策を左右している人たちと話すチャンスと場を提供した今回のシンポジウムのすこさを実感した。

「世界平和」「国連」が初めて自分の問題につながった

母親が父親の理不尽な振る舞い（自分の気に入らないことがあると、怒鳴る、物を壊す等から始まって暴力さまで）に腹を立てていた。今までなら、「実は私も昨夜夫が……」と母親と一緒にあって、男、夫をこき下ろし、最後には「我慢」「仕方ない」と諦めるのがいつものパターンだった。しかし今日は違った。斎藤千代さんが「日本の男は平気で女に暴力をふるう。それが慣れつこになったことが他の国への残虐な行為（戦争）にも及んだのだ」と話していたことを思い出し、母親に「第二次世界大戦後誕生した国連は、差別——中でも日本の女性差別、ドイツの民族差別への反省からだ。一人一人の日本の女が、自分の家庭の中で、夫の女性差別と戦うことが世界平和への道につながる」と話した。夫に対してやり場も出口もない愚痴、不平、不満を言いながら、ただ諦めていた母親は、自分が生きることが「世界平和」へとつながっているという話にびっくりしています。七〇歳に近い母親が初めて「世界平和」と「国連」を自分の問題として考えることができたのではないかと思います。

興奮しつつ 混乱しつつ

加藤 洋子

今、私は凄い会合に出席しているんだ……ジワジワツとくる。

斎藤千代さん。町ですれ違つても誰とも分からないような小柄なおばさん。でもひとたびマイクを持つと、女性問題、女性差別についてを身体の奥底から静かに、淡々と語る。それでいて聴いている私はだんだんと鳥肌が立つような震えを感じる。

焦りだか怒りなのかわけの分からない感情が湧いてくる。

何に對して？ 国に、為政者に、マスコミに、みんなみんな腹が立つけど一番はやつぱり自分自身の無知、鈍感さが腹立たしい。

第一回の国連の女性會議に参加するに当たつての様々な批判、英語も満足に喋れない、何の力も持たない主婦に何ができる、と言われても、行かずにおれなかつた。柱の陰から垣間見るだけでもいい。行きたいという一念で参加したという。参つたなあ。

何が彼女を動かすのか？ 戦争体験か……

私は戦争体験はなく、これと言つた不自由はなく、いわゆる恵まれた環境の中、今日に至る。でも、何かが足りない。自分自身で自分の存在感がない。

今、私は人から質問されると返答に困ることがある。

それは「夢」は何？ 今何がしたい？ と聴かれるのが辛い。

強い願望がない。そこそこに揃っていて、でも満足というか手応えがなく、焦りだけはあ
る。私のような中途半端な人間でも意識を外に持てば何か少しでも変わるのだろうか……。
強い願望がない私ができることの一步は？ 自分を責めないことかなあと甘えたくなる。深
夜遅く帰った私を待っていた娘に「来年北京に行こう。世界中の女性に会いに行こう」「大学
生になつていてもいなくても行こうよ」と興奮していた。

周恩来。田中角栄。古井善美。

侵略戦争に対する賠償金を求めず、国民に対しては、直接戦争に関係ない人からお金をもら
つていいのかと説いた中国の指導者。

その話を日本の指導者や教科書やマスコミからでなく、中国の人から聞かされた。
知らなかった。

張さんは日本各地の平和展を見て回ったが、日中戦争の写真は一つもなかったという。

私の日常生活の中には戦争どころか平和の意識さえないことに愕然とする。

食べ物捨てるほど出回り、それらのほとんどが輸入されていることの意識のかけらも持た
ず、だからこそタイ米が袋ごと捨てられたりする。

絶対この傲慢さの「つけ」はいつか回ってくるのではという恐れも、毎日の慌ただしさに消
されてしまう。

いろいろ考えていくうちに、日本に生まれたことが悪のような気がしてくる。

そんな中、参加者の中から個人の戦後の償いの話を聞いてほつとした。

ある一人（日本人）から全員（日本）を判断しないで欲しいといつも思うことだが、この日の中国の人はどう受け止めてくださったのか？

テレビで見るアジアの若者は、政治を話し、日本についてもよく自分の意見を言う。構成上特に強調してあるのか、それとも日本についての歴史が徹底しているのか。

少なくとも私がアジアについて知っていることはゼロに等しいと知らされた。

津田梅子さんがアメリカ留学から日本に帰ったとき、「日本の女性は不幸です。でも何の疑問も持たない人に私が何ができましようか」と悲しまれたそう。知らされなかったら、学ぶ場がなかったら、疑問も生じない。疑問に思わなかったら始まりはないと思う。今や情報時代と言われても都合のいい情報しか流されない中、私たちは何によつて真実を知るのか。

北朝鮮のニュースが流されると、高一の娘が必ず「北朝鮮に生まれず日本でよかった」と言う。私にも北朝鮮の姿は不気味で異常に映る。でも本当かなとも思う。

本当かなと思つてもどうしたら確認できるのか知らない。わかるわけないと諦めているから追求もしない。

しかし今回初めて中国の女性に出会い、彼女たちが決して諦めている人ではないことに刺激された。なにかうずうずして来た。

女四三歳、秘策を温め、ジャンプに乞ひ期待。あんまりガイ（米子弁で大きい）なこと言わんほうが身のためかなと、ちよこつと思ひながら……。

「日中友好」を説いた議員さんを 落とした私たち

大畑ひとみ

北京女性会議、それって、どんな人が行くの？ 私と、どんな関係がある？

まずだれもが思うだろう。私もしかり。婦人会の役員でもない。個人で行けるほど、お金や時間に余裕もないし、どうでも行きたいってほどの関心や、情熱もない……。と、少々、ひねくれて、傍観者となっているのが本当のところですよ。

シンポジウムを聞いて、私のひがみは、やはり、ひがみにすぎないと気がついたが、そう思いながら、またひがんでしまう私。私個人の心のあり方を、（最近、いつも感じていることだが）どうにかせねばなるまい……。と、またまた、思う。心もそうだけれど、生活それ自体、家族との日々のやりとりの中にあるへんてこな瘤みたいなものがあるのを感じる。

これって、女性の解放と無関係じゃないな……。と思う。私的なことだが、小さい問題と切り切れない。時代おくれの農村……。なぜ時代おくれなのか、中国の一人の女性の発言に、「中国の社会は、まだまだ儒教の教えの中にある身分差別とか家長制度など、女性の問題の根は深く、日本の農村とよく似ていると感じた」というのがあった。なるほど、宗教とか、親子関係、夫婦関係とか、そんなものが差別（女性差別もふくめて）には、大きくからみついている。一

人では、どうにもならないわけである。社会的にも、がんじがらめにされているのだ。

第二次大戦中、日本軍によって流された多くの中国の人々の血への責任に対し、今日にいたつても「日本政府からは謝罪が無い」ということに、出席者の一人から発言があつた。「国交が無かつた時はもとより、七二年に国交が回復してからも、何の謝罪もない」……と、本当に中国の人々の無念さを訴えられた。

私は、日中国交回復の件で思い当たることがあつた。それは、Fという鳥取県選出の国会議員が、日中国交を、全く、日本中の人が「あつ！」と言う間にこぎつけてしまつたのだ。あまりに、素早かつたので、全国的に日中国交への盛り上がりや、中国へのしよく罪の意識が拡がる間もなかつたと思う（それでなくとも、中国へのしよく罪という意識は、残念ながら、貧しき心の日本人には、ゆきわたりにくかつたのであろう）。とにかく、これから、中国と仲なおり……という兆しに、あろうことが、F氏は、国会解散による選挙で落選してしまつたのである。貧しき県民は、自分たちの所へ、高速道路や、バイパスを引つぱつて来る議員のほうを、日中国交や中国への謝罪運動よりも、大切だと思つたのである。私はF氏の選挙ポスターに、パンダの絵が印刷されていたのを忘れない。F氏はとても落たんされていたと、聞く……。多くの県民は、「Fさんは、日中国交の大仕事を成功させた。自分が入れなくても、誰かが入れるだろう」と思つたのである。……そして、F氏は、国会への道を閉ざされたのである。

あの時、F氏が当選していたら、一気に、日中の国交が進んだにちがいないし、戦争に対するしよく罪の道も、開かれたかも知れない……と思う。「私一人が一票を入れなくても……」と思う人間がやつたことは、「私は、中国に何も悪いことをしなかつた」ということに連動し

てしまったのだ。目先の欲だけで、議員を選ぶとは、こういうことなのだ。

「しよく罪する心が全く無いとは言えないけれど、心が貧しい日本人を許してください。」

シンポジウムの終わりに、F氏のことを三人の中国の方々にお伝えしました。ほかにもう一人、自分の父親のことを話された方がありましたが、こうして終戦五〇年にもなると、歴史も色あせていくのではないか、証人も老いて去りつつあるのに……と、不安な思いもします。

ぐんと近づいた北京

原 克子

まず最初にすばらしい人たちに出会えたことに感謝。

この出会いを企画されたへあごら鳥取のみなさんへ感謝！

今回の話を前夜電話で聞いた時、斎藤千代さんが鳥取へいらつしやる、じゃあお話がまたできる、うれしい……と会場へ。

チョットマテ？ 仕事で七時からエステの予約が……。

お客様へ強引に六時に変更して頂く（お客様は迷惑ですよね…ウフフ）。

車を会場へ急いで走らせる。

すでに始まつており、ステージでは紺のスーツ姿で清楚にまとめたひとりの女性が皆を前に

話しておられました。その横には斎藤千代さん……。

おどろいたことにその女性が中国の女性とのこと、日本語をとつてもきれいな言葉でわかりやすく話されるのです。

私は生まれて四十四年日本語を話しています（当たり前のことですが…）。

はずかしいことですが彼女のように話せません。

その彼女は日本語の勉強をしたいということで日本の大学を選ばれたこと、とてもうれしく感動しました。

皮膚の色・顔立ちなど同じアジア人ということで親近感があり、北京女性フォーラムに参加したような満ち足りた気持ちになりました。

鳥取・中国直行のチャーター便も現在飛んでいます。

中国も近い国ではないか…？ 夢でもないような気がします。

またお会いすることができたら幸せです！

（米子方面に向かう車中にて）

「女思想」を持った中国の女性たち

坂出 節子

彼女たちのなしを聞いていて、与謝野晶子の「私と宗教」という文章の一部を思い出した。

「男には、坐禪をくんだりする必要があるかもしれないが、女には、坐禪の必要なんか無い。女はだれしもわたしくらいの年になれば、いやでも二十年、三十年、四十年の修業を積んでいて、壁に向かつて九年も坐禪したというたるまを、はるかに上まわるほどのものを、どんな女ももつようになるからだ」

夫を愛し、たくさんの子どもたちを愛し、自分の才能を思うぞんぶん花ひらかせ、そして楽しく人生を全うした人であろうからこそ、おもしろい考え方だと思ふが、今の中国には、彼女のような女性が大勢暮らしていて、人生の苦難に前向きに向かつて楽しんでゐるから、中国は今、動いてゐるという感じを私たちに与えるのだろう。

彼女たちの話には女の思想があると思つた。私たちも負けられません。素敵な会をありがとうございます。北京会議の成功を祈ります。

大陸の心に感動

岸本こずえ

(一六歳)

中国の人たちがみんなそうなのかどうかはわからないが、今回会つた三人の人たちは私にすごいしよーげきを与えた。

戦争に関しても、日本人よりもはるかに大きな心で、日本を見ているように思えた。そして

そんな人たちの国に対して取りつづける日本の今の姿勢が恥ずかしくてたまらなかった。

相手の大きさを知れば知るほど、この国のことを恥ずかしく思った。

そして、そんな中国が、来年、世界女性会議を開くときいて、やつぱりすごいなと思った。その会議についてはぜんぜん知識もなかったが、話をきいて本当にこれからは「女の時代なんだな」と考えさせられた。人ごとではない「私の時代なんだ」ということを本当に実感させてもらった。そして、中国の人たちのもつてる「大陸の心」を島国の我々ももつて、「日本は小さいけど心はbig」と言われる国にしたい。

人と人のつながりの大切さを知る

辻 照子

中国つていう隣にあるのに未知（私の無知）の国の人たちに初めて出会って、本当に人間一人ひとりのつながりが、平和を大切にしたい、友だちと戦争したくない——という気持ちを育てるんじゃないかなと思いました。

政治家を尊敬する中国人に感銘

横田 正光

「中国の方が、政治家に対しての尊敬の念を持っている」ことが驚きでした（僕はすっかり忘れていたので）。人を尊敬することを思い出させてもらったことで、僕の心のバラバラになっていた部分が少し修復されたような気がしています。

“中国の三女性”のお伴をして

斎藤 千代

「ひょうたんからコマが出る」ということばがあるが、鳥取でのシンポジウムは、全くひょうたんから出たコマの連続だった。

九五年の北京会議NGOフォーラムへ向けて、参加者のための準備講座のようなものが必要なのは、と、連続講座「北京会議への道」を企画したのが二月。その目玉に、三月の横浜の

フォーラムでパネリストとして同席した中華全国婦女連合会国際部の張静さんと盧亜民さんを招くことにした。八月、北京に出かけて交渉成立。せっかくわざわざ中国からお招きするのだから、日本のあちこちもお目にかけたい、日本のフツの女たちとも交流してほしい、と大阪と福岡と鳥取に声をかけた。

「よつしや」と真つ先に引き受けたのは鳥取の芦谷美鈴さん・前田享子さんと、大阪の沢田和子さんだった。中でも〈鳥取〉は擦らないうちからマツチが燃えた。「女性問題後進県」の中で苦闘を続けた歴史を、サラリと、「ふーん、鳥取も国際的になるね」と表現して。翌日には、「ささんか会館という二百人の会場をおさえた」と、すぐ電話があった。

ところが十月に入つて、思いがけない騒動になった。「東アジア女性フォーラム」で、中国の三人を二日間面倒を見てもらうよう北九州市に頼んだ、その三人の中に張静さんも入っている、張さんをどうしても〈あごろ〉が頼みたいのなら三人全部面倒をみてもらいます——というキツイ話が〈東アジア〉の事務局から突然舞い込んだのだ。しかも翌日には東京に帰らなければならぬという。大阪の沢田さんが苦勞して組み立てたたくさんさんのプランは、涙を飲んで潰さなければならなくなつた。鳥取は、日程さえ無理すれば何とか迎えられるのはラッキーだった、三人ともお引受けすることになると……。『女は度胸』をキャッチフレーズにしている私も、さすがに一瞬絶句した。自治体が「呼ぶ」という時は、それなりの予算の裏づけがあるが、お金のない〈あごろ〉が地方巡業するのは、どだい無理な話。あわてて〈東アジア〉の事務局と折衝し、北京にFAXと電話をかけ続けても、一向にラチがあかない。こうなつたらもう『度胸』でいくしかない。お金は〈あごろ〉の事務局が目一杯もつにしても、現地の宿

泊先は……。予定していたオイシイご馳走は……。《鳥取》が大変だ。しかし、燃えるみずずは、ここでも「やるつきやないじやない」。「そう。じゃ、《あごろ》で全部引受けちゃおう」と、私もカラ元氣を出した。こんなことではいつもアウンの呼吸の二人、「その日はその日の風が吹く」も、いつも二人の共通項、あとは天運にまかせることにした。

ところで張さんは知っているが、あとの二人はどういう方なのか、名前さえわからない。二人のうちの一人が、八月に北京に行ったときお会いした花郷の郷長、王春蘭さんと知ったのは、いよいよ始まる三、四日前だった。王さんは、改革開放路線をひた走る中国期待の女性。中国の「肝つ玉母さん」。日本の女たちにきつと何かのインパクトを与えるだろう。すこし心の荷が軽くなった。ありがたいことに、北九州市と、福岡のアミカスも、三人の送迎に温かな心配りをしてくださることになった。

それでも、北九州市の歓迎会が入ったため、三人を迎えるスケジュールはものすごくタイトになった。福岡で正午にお話が終わって一時半の「のぞみ」に乗る。そして岡山から芦谷さんのネットの車で鳥取へ——が、鳥取午後六時に間に合う最短交通機関とわかった。福岡―鳥取間の空路は、早朝の一本だけ。JRの接続も悪い。地図で見れば小倉からひと足伸ばせば鳥取と思えるのに、新幹線と車を乗り継いで、たつぷり五時間はかかる「遠路」だったのだ。

それでも、「鳥取」という名前は、中国の三人には未知の世界。岡山から鳥取へ向かう車中、三人はゴキゲンだった。「鳥」という字が入っているところがいい、自然が豊かなのでしょうね、という。「ほかの人たちは大都會を見るだけ。私たちはラッキー」との喜び方に、「そうです。ラッキーです。鳥取には日本人でもそう簡単には行けません」と、私はヘンな威張り方を

したが、岡山から中国山脈を越える間に夕陽が沈み、三人に疲労の色が濃くなったのを見ると、さすがノータンキの私も、だんだん心臓が重くなつた。

開幕寸前、会場にすべりこみ。予想したとおり、広い会場は三分の入り。秋風がにわかに沁みる。それでも八五年ナイロビ会議の報告会の時は、〈あこら鳥取〉がオーブンしたばかりで、一か月かけてPRしても来客はたつた一人だつたことを思えば、五十倍にふくれた、と思おう。三人の話が始まると、聞き手の顔がどんどん輝いてくる。心臓の痛みはいつか忘れていた。

「どこの国のことを学んでもいいが、日本語だけは学ぶな」と父に叱られ、祖父が日本軍に虐殺されたことを初めて知つたという張さんの話には、みんなが涙を拭つた。そして「賠償よりも戦争しない構造を日本に迫つた」周恩来の偉大な思想に打たれた。中国が、急に近く、親しくなるとともに、新しい姿で心に迫つた。

「自信・自尊・自立・自強の〈四自〉に支えられている」という呉天さん（中華全国婦女連合会国際部処長）は、高い背をさらにスラリと伸ばして、「中国のいま」を語り、北京郊外の花郷という郷（郡）の長に三十代で選ばれ、四万の郷民のすべてを、花の栽培を中心としたアイディア農法で「万元戸」にした王春蘭さんは、「農にこそ民の基がある」と、力強く胸を張つた。「百聞一見に如かず」と言うが、美しい響きの中国語を耳にし、黒い髪、同じ色の肌の中国の人たちとまちに接したことは、どの人の胸にも「何か」が残つたろう、と、嬉しかつた。

終わつて、有志で夕食の宴へ。——これは予定がちよつと違つた。

もともと「鳥取」を思いついたのは、いつもここに呼ばれるたびのゴチソーが格別おいしい

というのも一因だったが、三人は、「もうゴチソーはほしくない」という。江ノ島以来、毎日同じような日本料理は、彼女たちにはかなりの負担だったようだ。「ラーメンがほしい」。このつぶやきを、岡山からの車中、移動電話で連絡。美鈴さんは予定の「山海の珍味」をキャンセルして、ホテルの一隅に席をとっていた。

ショウケースに額をくつつけるようにして三人が選んだのは、そろって五目ラーメン。野次馬たちは、それにギョーザやらチャーハンやらを勝手に加えて、お互い、声がよく届く距離で、フランクに話し合った。

私は、八月に王さんにお会いしたとき、たった一つ気になったことを、あえて話題にした。清朝時代以来の伝統の花栽培にさらに工夫を加えて、野菜、養鶏と、規模を拡大、世界庭園公園までつくって名所にした王さんは、「今度はゴルフ場をつくる」と八月に話された。私は顔色を変えて、「それは……。何かプラスなさるなら養蜂場になさったら。こんなにお花があるのですから」と言ったが、同行の四人の日本女性の援護はなかった。また言うのもくだいかなと思いながらも、やっぱり「ゴルフ場」は聞きのがせない気がして、鳥取の会食の席で、私はあえて翻意をうながした。王さんのゴルフ場がもし成功したら、あちらにもこちらにもゴルフ場が出来るだろう。狭い日本ほど深刻でないにしても、その行く末がこわい。

すると、テーブルのそここから、席を立つて、鳥取の女性たちが八人も十人も王さんを囲んだ。「王さん、ゴルフ場はいけませんよ」

げげんな顔。なかなか納得しなかった王さんも、最後には、「じゃ、ゴルフ場をやめてサツカー場か温泉にしましょうか。考えましょう」

翌日、王さんと呉さんは、張さんより一足先に中国に帰った。「ゴルフ場のこと、納得なされたかなア」——見送る私の懸念に、張さんはきつぱりと、「彼女、わかったと思いますよ」と答えた。

中国のVIP三人をお連れして歩いた今度の旅は、正直なところ、しんそこ疲れた。子どもを連れ歩くよりも、「重要な成人」のお伴をすることの大変さを、骨に沁みて感じたが、その疲れを吹っ飛ばす喜びがあった。

鳥取の著名な民芸和風建築家の手に成る新築の伊田邸の日本間に、四人でふとんをぎつしり並べての雑魚寝も、みんな氣に入って下さったようだった。日本人が洋間でコーヒーやパンをとる朝食も、三人には新鮮だった。英語が流暢な呉さんは、お別れぎわ「鳥取に行けてラッキーだった。海も人もみんなすばらしかった。あのヌードルは中国のヌードルにもましておいしかった。今度の旅で鳥取が一番よかった」と繰返し繰返し感謝して下さった。

日本語も英語もできない王さんとは、はじめ、張さんが呉さんを介して話していたのだが、いつのまにか私は日本語で勝手に話していた。いかにも隣のおばさんという感じの王さんには、日本語がそのまま通じるような氣になつてしまったのだ。王さんは中国語で答え、二人は互いにワカッタ氣になつて、ほほえみあつた。鳥取に行つてラッキーだったと、私も、いましみじみ思つてゐる。



捨て場のない核のゴミ

——原発の入口と出口で起きていること

土井 淑平

原発のアキレス腱は、旧ソ連のチェルノブイリで実際に起きた恐るべき大事故の危険性に加えて、たまる一方で捨て場のない核のゴミのあと始末の問題にあります。

原発から出る核のゴミは、低レベルと高レベルに分けられますが、原発以前に、ウラン残土と称する核のゴミが、岡山・鳥取県境の人形峠周辺に野積みそのまま放置されていたことを皆さにご存知でしょうか。その量は、日本の全原発から出た核のゴミの総量の二倍以上ですから、まさにびつくり仰天です。

その人形峠周辺のウラン残土は発覚から六年にもなるのに、立ち入り禁止柵と土止めのえん堤が設けられた程度で、きちんとしたあと始末がされていません。だが、鳥取県側の東郷町方面（かたも）地区の住民は六年越しに「ウラン残土の撤去」を要求し、発生源者の動燃事業団も搬出先が決まらないまま、方面地区の残土の一部袋詰め作業に着手せざるを得なくなりました。

ところで、人形峠周辺は、たんにウラン残土の捨て場になつたにとどまらず、原発と再処理工場から出る猛毒の高レベル廃棄物の捨て場にも狙われていたのです。「前門のトラ、後門の

オオカミ」とはこのことです。

すでに岡山県側では、哲西町と哲多町にまたがる荒戸山が狙われ、久世町で高レベル廃棄物処分のためのジオトピア（地下都市計画）が明るみに出しました。動燃人形峠事業所のある上斎原村や隣接の久米町でも水面下の動きがキャッチされています。

このため、岡山県の人たちは、何十万人もの署名を集めて高レベル廃棄物を持ち込ませない県条例制定運動を起こし、町単位で次々と歯止めをかけています。鳥取県でも市民の取り組みがスタートしました。

日本は使用済み燃料の再処理を委託している英仏から今春返還の始まる分も含めて、高レベル廃棄物を青森県の六ヶ所村で冷却しながら中間貯蔵したあと、三〇―五〇年後に地下数百メートルに処分する方針ですが、青森県は最終処分を拒否しています。

国の計画では、西暦二〇〇〇年をメドに高レベル処分のための事業主体を設立、国内のどこかに地下研究施設と最終処分地を選定する予定で、早くも水面下で候補地選定の作業と誘致の黒い動きが出ています。

その候補地とされる北海道・幌延や人形峠周辺のほかにも、秋田県・尾去沢、岩手県・釜石、宮城県・細倉、茨城県・真壁、岐阜県・土岐、兵庫県・明延、大阪府・河内長野などで高レベル処分に関連した研究や実験が行われています。あなたの地域は大丈夫でしょうか？

（なお、ウラン残土や高レベル廃棄物について詳しく知りたい方は、とりあえず拙著『環境と生命の危機―核のゴミは地球を滅ぼす』・批評社をこらんなさい）

（動力炉・核燃料開発事業団の元主任研究員。現在共同通信鳥取支社勤務、地質コンサルタント）

「お嬢さん」という言葉

広野彩子

(朝日新聞鳥取支局)

入社二年目の、いわゆる駆け出し。生まれてからずっと横浜で暮らしていたが、入社後すぐ鳥取支局勤務になった。去年は警察担当で、着任後二週間で、生まれたばかりの赤ん坊が鳥取市の産婦人科医院から連れ去られた「新生児誘拐事件」を担当した。全国ニュースだったから、覚えている方もいるだろう。現在は持ち場のない「遊軍」記者で、マイペースに、問題意識を感じたものを取材している。

女性だけで女性問題を議論したりするのは、何か偏っている感じがして、正直言つて好きではない。男性と共に議論してこそ意味があると思う。問題と感じた時に主張や議論をしないで、被害者意識だけが強い同性の人も多いが、戸籍の問題や職場での女性軽視など、明らかに不当なことには、常に声を上げるべきだろう。

私が、自分が女であることを強く意識するのは、取材相手から「お嬢さん」と言われた時だ。名刺も渡して、一通り取材を終えたあと、「お嬢さんはお若いから……」「お嬢さんはどちらの出身ですか」と、くるのである。たいてい中年から壮年期以降の男性だ。私はこの言葉を投げかけられると、何か茶化されているようないやな気分になる。たしかに「お嬢さん」だが……。

この「お嬢さん」という言葉を考えた時に、この言葉のもつ意味が、非常にあいまいな位置にあることに気づいた。「お嬢さん」を広辞苑で引くと「お嬢さま」のやや敬意の軽い言い方とあり、①相手や主家の娘の尊敬語 ②未婚の女性に呼びかける語 ③苦勞を知らずに育った女——とある。一般に、お嬢さんという言葉には、③のイメージが強くある気がする。男性で言う「お嬢さん」に近いのは「お坊ちゃん」だが、世間で「お坊ちゃん」と呼ばれ

る男性記者がいるだろうか。

支局でも、庶務の女性が「お嬢さん」と呼ばれる、と言って怒っていた。無論、上司が名前を知らないわけではない。年配の方たちには、女性なら誰でも「お嬢さん」、「女の子」と呼ぶ人がたくさんいる。本人たちは②のつもりかもしれないが、③のニュアンスを込めて受け止められる場面が多いようだ。

個人が「女性」という枠だけで見られてしまう場面は、あまりに日常的だ。ある高校で新聞記者を呼んで体験を話させる企画があり、お呼びがかかった。「女性として見る高齢者問題とか、差別問題について話してほしい」と担当の男性教員に言われ、思わず「私は私の考え方、見方しかできない。女性としての考えなんて、女性もそれぞれ考えが違うから言えない」と答えた。女子が六割いた生徒たちには、最後に「自分の性で自分の行動や考えに枠をはめないでほしい」と、話した。

…などと突っ張りつつ、「お嬢さん」と言った取材相手と仲良くなると、親しさの表れなのか、と良く考えたくもなってくる。「お嬢さん」だからこそ、取材相手に警戒されず、早く親しみを持ってもらえる利点もある。女性記者がまだ珍しいせいもあるだろう。

実際、どこの職場でも一線で働く女性はまだまだ少ない。が、高齢化が進んでいくと、女性の労働力なくして社会は維持できない。女性が子を産む性である以上、企業には、安心して働ける制度を早く整えてほしいが、現実には厳しい。とにかく今は、「苦労はあっても、頑張れば何とかなるんじゃない」と、楽天的に考えることにしている。

まだ突っ張っている、青二才のたわごとである。

「交互に調整したり変革する」の意だし、さらにもう一つさかのぼったalterは、make different ; change in character「変える ; (性格・形・位置などを) 変更する」で、かなり積極的な「変化」「変革」を、もともと含んでいるようだ。

それに比べると、「アンビバレント」は、「正か邪か」「善か悪か」「生か死か」のようにゆれ動く心を表現するもので、語源はラテン語。ambi = both valent = to be strongの合成語。「両面価値の」という訳語をあてても、何となく意味不明。「同時に同一対象に対して互いに矛盾する二つの感情(価値)を持つ精神状態」(研究社中英和辞典)、「同一事物に対して同時または交替的に相反する感情・態度を持つこと。たとえば、愛と憎」(広辞苑)の説明で少しイメージが浮かぶ。

原義から考えると、相反する気持ちがともに強く、シンクロしたり、ドッキングしたり、シーソーゲームをしたりもして並存する心の状態。当然、葛藤を生むし、引き裂かれる。「女は存在そのものが即、分裂記号なんだ」(小倉千加子)というセリフを想起させる。

とまれ、目の前に二筋道があれば、どちらを選ぶか、迷ってしまうだろう。でも選択の道が閉ざされているよりはずっと良い。たとえアンビバレントな葛藤にさらされるとしても。そんな気概が込められているような気が私には伝わってくる。

「男女性別役割」からの脱皮、「性のダブル・スタンダードやダブル・バインド」からの脱出。すべての固定観から自由でいたい、縛られたくないとの願い。そういう願いをこめた異議申し立てと変身願望。闘志は内に秘め、柔らかな発想と感性でベターなものを求めつづけていく。昨日よりは今日、今日よりは明日。欲張らず一歩、また一歩。欲張ってベストを求めるとドグマ(独善)に陥る。性急は禁物。そんなメッセージがこの言葉から送られてくるような気がする。

斎藤(千代)さんがオールタナティブを耳にしたのは、75年メキシコ女性会議。「今までになかった、もう一つ別の」の意をキャッチされた由。私よりはずいぶん早い。

メキシコ——コペンハーゲン——ナイロビ。そしてこの夏、北京。「女から女たちへ」私もナイロビで一本のタイマツを渡された気がする。

オールタナティブ (alternative)

奥 川 睦

フェミニズムの用語として特殊なニュアンスがこの言葉にどう込められているのだろう。そう悩み始めて数年がたつ。

alternative question (Yes か No で答える疑問文) の「オールタナティブ」が、私の頭を専有し、その訳語「二者択一の」「AかBいずれかの」を当てはめただけでは、文脈がしっくりこない、という場面に、たびたび出くわすようになったのだ。

それまでは、あまり、この言葉が日本語の中で普通の顔をして使われるということとはなかった。目にする機会そのものが増えた、ということでもあろう。広辞苑(第三版)にも、「オールタナティブ」はない。近年、女性学やフェミニズムの文章の中で頻繁に使われるようになったという私の印象は、大きくハズレてはいないと思う。

「一つに決めてしまわれては窮屈だ」の主張は、前後の雰囲気でキャッチできるものの、「AではないB」と決めつけた使われ方に抵抗があった。心理学用語で使う「アンビバレント」(ambivalent)と同じような、「揺れ」を表わす言葉だと思い込んでいた。

ところが、辞書を見ると「代わりの」「他に採りうる道」と、そのものズバリの訳がキチンとあるのだ。「従来の母親役割のみでは納まりきらないオールタナティブを、女たちは選び始めた」のように。違和感を感じる必要は全くなかったわけで、形容詞の他に名詞があることも確認した。「従来とは違った代案」「目の前にあるのとは別の替案」くらいに訳してもよさそうだ。

①the alternative of death or submission も「死か降伏か2つに1つ」

②The alternatives are death and submission. 「同上」

③The alternative to submission is death. 「同上」

①②③とも文意は同じだが「オールタナティブ」は、①「二者択一」②「その一つを選択すべき二者」③「他に採りうる道」と、それぞれに差がある。

④alternative courses 「二筋道(死か降伏かなどの)」

⑤have no alternative course 「他に手段がない」

④の「オールタナティブ」は「二者択一の」、⑤は「代わりの」の意でいずれも形容詞。①②③はもちろん名詞。③と⑤が、私の意識からズリ落ちていたことになる。

「オールタナティブ」の元の動詞alternateは、arrange or perform by turnsは

あごらめい

“風”を生む人

芦谷 美鈴さん

「マツチを擦る前に燃え出す人」とは斎藤千代さんの評だが、行動力と声のでかさは、鳥取、いや天下一品だ。十年前、彼女と出会った時の私は、男女役割分担を話し合うこともなく、〈女は内、男は外〉という差別に疑問を持たない〈専業主婦〉たちと、子育てをめぐって関わりずにはいられない、その日常にへきえき気味であった。そんな私だったから、さして期待もせず、本の話だけでもできればよしと、〈鳥取本の会〉の代表だった彼女に会いに出かけた。その場で、「あごら」をはじめ、数種類の情報誌を手渡すと、さつそく読み、すぐに共感、定期購読者になってしまうという手早さ。「考えること」と「行動」が、たしかに結びついている人と直感した。

彼女は、生まれ育った地域で、子育てを通し、食の安全を生協運動に、合

成洗剤追放を地域に、原発反対をさらに広い地域に広げ、そして読み聞かせという子どもも大人も巻き込むお話し会に、講演に、と、正に八面六臂の活躍だった。その周囲にはいつも仲間と呼べる地域の女たちがいた。

その後のわらび座講演、これは「用瀬町(彼女の住む町)のルネッサンス」とまで、私たちが勝手に呼んだほどに、成功裡に終えた。

〈ともに〉という共同出資の縫製工場を極小規模で経営。女たちの経済的自立を志した。

そして一九八五年には、私と二人で〈あごら鳥取〉を旗揚げ。〈あごら〉のナイロビ参加者を十人近く招いてナイロビ女性会議の報告会をやったが、会員以外の参加者は一人だけ。女性問題後進鳥取を、骨の髄まで痛感した。が、彼女は持ち前の明るさで、

「明日の希望が大きい」と笑い飛ばした。

そして八七年、彼女の町議選出馬は地域を巻き込み、仲間たちのエネルギーも沸点に達したかのようだったが、「トップ当選」の新聞予測がわざわざして落選。

この悲運のなかで激しい恋。ついに離婚。「ニコニコ離婚講座」を地で行ったとは、さすがに言いがたいが、連れ会うこと、フェアプレーがあるならば、フェアコミュニケーションもある？と考えさせられた。

私はもつと保守的な家族観を大切にしてきたし、おつれあいの彼女に対する献身にいつも感動していたので、独りで飛翔する彼女を許せず、その後しばらく断絶してしまったが、今も友としてつきあい、父親役は継続中の「元つれあい」と彼女は、まさに「ニコニ

コ離婚講座の実践者」だったのかも知れない。

市内に住む私が、郡部に住む彼女の、当たり前前に喋り行動する、そのエネルギーにいつも驚いていた。何より彼女が孤立無援ではなく、仲間があるという現実が心強かった。でも、彼女はたつぷり誤解も曲解もされた。時間に間に合うことが少ない彼女に、へみすずタイム」と名付ける人あり、すてきだったことや、その逆も、彼女特有の拡大解釈で語るのを、「話半分」という人もあった。が、それは「拡大」ではなく、彼女自身の感性が、人の何倍も鋭いのだと、私はだんだん納得できるようになった。

保守的な地域にあつてこそその彼女のしたたかさが、仲間があつてこそその支え合いで、彼女が輝いていたのがこの十年ならば、今、そしてこれからの彼

女はピカ一の決断力と行動力で、無限の未来へ新たな彼女自身を生きているように見える。

(前田享子)



ペルーの女は立ち上がった 8

第三章 フェミニズムの芽生え (2)

キヤロル アンドレアス
訳 サンデイ サカモト

母親に向けられた米国のプログラムの影響

チンボテは辺境の町であるというだけでなく、一九七〇年の五月に大地震を経験した町でもある。「米国食糧平和プログラム」は、ペルー政府がその土地の価格で米国から余剰食糧を買い取るよう働きかけた。そのお金を使つて、米国役人がペルーの地域のスタッフにお金を支払い、さまざまな地域プログラムを提供した。食物は「ヘカリタス」という組織を通して、カソリック教会が創設した母親クラブを通して配られた。^(注38)この頃、八〇以上の母親クラブがつくられていた。女性活動家たちは、このようなクラブの経験を思い出しながら、自分たちが温情主義的に取り扱われ、教会の信仰や役割を押しつけるために授業やプロジェクトに参加させられていたことに憤慨していると私に話した。一般的に女性たちは、縫い物などのクラスには喜んで参加したが、設備や教師が

足りないため、その影響力には限界があつた。このような授業は女性の視野を広げるのに役立つことはなく、コミュニティや家庭内でも女性が独立できる力を与えるようなことはなかつたという。

それどころか母親クラブができたことによつて、地域の女性の間で、ライバル意識が生まれた。それは食糧分配や教会からの恩典に対するライバル意識であつた。しかし、ある女性たちが、プログラムが計画した以上に母親クラブにさまざまな要求をした結果、独立したリーダーが生まれた。また新しい女性組織も生まれ、ときによつては、クラブが地域組織や女性の教育のためのセンターにとつて代わつた。

一九七五年、地方政府の働きかけを通じて「チンボテ母親クラブ中央委員会」が設立された。地方クラブの代表になると宣言した女性たちの合法性や委員会の構造について討論が次から次へと行われた。女性たちは時々個人的な問題のために分裂したが、それもまた政治的な意味を包含していた。一九七五年八月、フランススコモラレスベルムデスが、フアンバラスコアルバードに代わつて大統領になつたとき、政府は女性組織を無視した。地方政府には経済的余裕がなく、「母親クラブ中央委員会」も名前だけ残つた。しかし、それまでの女性同士の接触や闘争は、後に再編成された組織の基本になつた。

そして一九八〇年、軍事支配が終わり、地方自治選挙で母の日反対抗議を支援した左翼が選ばれた。(注39) この抗議によつて、貧しい女性が直面している毎日の問題と消費主義のために女性が搾取されているということ、そして女性の自己犠牲が理想とされているということの問題点に人々は注目するようになった。再び活動を開始した母親クラブ中央委員会のおかげで、「母親クラブ」のメンバーがこのような抗議の代表となつた。

避妊援助と名のる米国のトリック

一九八〇年以後、フェルナンド・ベラウンデ・テリー大統領が権力を手中に納めたため、立法的にも経済的にもペルー地方政府の力は非常に弱体化した。地方自治が大統領の党の一派でない限り、彼らは基本的には象徴でしかなかった。しかし、初期の頃、ベラウンデ大統領がペルー政府は民主主義政権であるというイメージを世界に作り上げようとした熱心さを、女性たちは利用しようとした。

女性組織のエネルギーが合法的な権利を獲得することに向けられていたため、政府は彼女たちの抗議を比較的無難なものとして見てきた。そのため女性たちが、避妊用具が手にはいるように、そして合法的な中絶が無料でできるようにと要求した時、援助国である米国は彼女らの組織を励ました。またペルー政府も人口抑制を奨励するために、いくつかのプログラムを取り入れなければならなかった。米国は主としてペルーの資本主義発展の管理がうまくできていないということを心配していた。もともと、米国の目的は輸出経済（ペルーが西側諸国に品物を安く売る）や地方市場（米国製品を売る）を発展させることにあった。しかし、このような目的に到達しようとすればするほど、かえってペルー国内に階級をつくりだし、将来革命的勢力になりやすい貧しい人々や失業者は増加するばかりだという矛盾した問題に直面することが多くなっていた。そのため貧困の増加を子だくさんのせいにと、女性たちの要求を支援した。

このようにして、女性たちの避妊プログラムの要求は米国の目的と重なった。都市のスラムでは、

子どもたちの労働は農村に比べそれほど重要ではなかった。このような場所に住む女性たちにとっては、自分の体をコントロールする権利がますます重要な要求になっていた。しかし、米国のプログラムは、健康管理や様々な避妊方法などについて女性を教育することに焦点を当てていないと批判された。それよりもむしろ米国の目的は、プロバガンダや実験、そして危険で価値のない製品を市場にだすことだったという。

一九七二年から一九八一年までの間、チンボテの「里親計画」(フォスターペアレンツプラン)では、広い範囲にわたり問題のある避妊プログラムを適用した。驚いたことに、米国の個人から集められたお金は、養子の子どもの教育や扶養料に使われるのではなく、家族計画の促進のために使われた。しかし、そのスタッフが内部状況を暴露したため、この組織は潰れ、人口抑制プログラムは他のエージェントに移された。

また同じペルーで、平和部隊、ロックフェラー財団、フォード財団などによって同じような活動が行われた。チンボテの住人が説明したところによると、このようなプログラムの主な目的は、住人の問題を彼ら自身の無知や進取的精神の欠如によるものだとして人々に押しつけることにあったという。このような押しつけに対して人々が抵抗したため、人口抑制プログラムは国連に委託されたが、それでも、米国がほとんどの財政をカバーし、人口抑制政策を仕切っていると、チンボテの住人は米国を非難した。(注40)

大衆が、避妊援助には利害が絡んでいる援助が多すぎると抗議をしたところ、米国はペルー中央政府を通して、IUDを挿入する助産婦の訓練をするためのプログラムを設立した。それは医者よりも助産婦の方が避妊をすすめるのに受け入れられやすいだろうと思われたからであった。

避妊計画の「陰の意図」を見破った女たち

アンカッシ州で働いていたある北米女性の仕事は、産児制限のためだけに政府助産婦訓練プログラムができたわけではないと証明することであつた。彼女は私に、ペルー政府に直接雇われたことを強調したが、地方で雇われた人たちは「研究費」は米国の援助からきていることをよく知っていた。産児制限は常に外部の利益と関連した問題であるということは明らかだ。(注41) アップジョン社によつてつくられた避妊薬であるデプロベラ(長期間使用するとガンを引き起こす恐れがある避妊薬)の使用は、米国では一九七五年にすでに禁止されていた。しかし現在、ペルー、チリ、メキシコではまだ実験がなされている。

人口抑制プログラムの影響をこうむった女性たちは、無神経で腹黒いビジネス界や政府だけでなく、教会リーダー、医師、裁判官や夫たちをも批判していた。ペルー政府や教会は、避妊用具に關しての意見を始終変え、女性の生命の危険なしに子どもを産む産まないの選択ができるという女性の基本的権利を認めてはいない。このため、教会が「責任ある親」キャンペーンを始めた時も、例外なく女性たちに非難された。あるフェミニストは忠告した。「教会は女性を罪深いものであるとし、母性のためにのみ存在すると考えてきた。そのため、女性は自己を犠牲にするのが当然であり、母性を通してのみ救われると考えられている」

教会はあるプログラムを組織して家族を保護した。それは最初クリスチャン家族運動と呼ばれた。このフェミニストによれば、このプログラムは、女性があまりにもたくさんの子どもをつくるため、

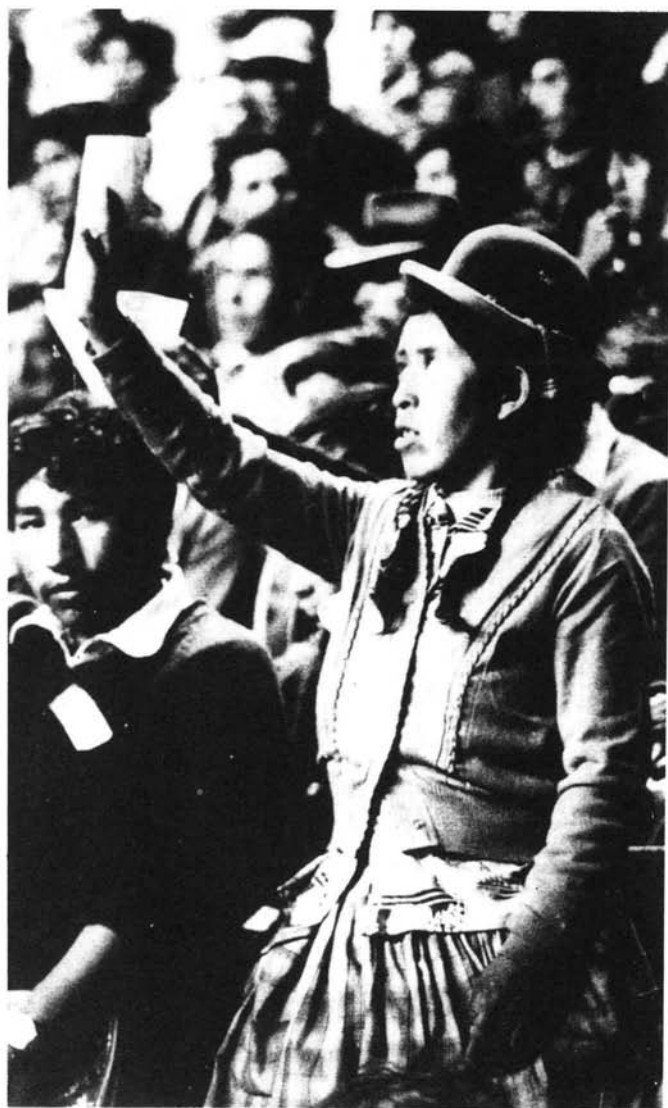
女性をその罪から救う為に避妊用ピルを配らなければならないという主旨に基づいているという。

(注42)

地方から多くの女性が町に来て、生きるために地域を守ろうとしたときに、初めて権力者と接触をした。チンボテの女性がフェミニスト問題に刺激されたかどうかはともかく、約束や脅しを使つて、自分たちを利用しようとした人を信じてはいけないということを、過去十年間の闘争の時代に十分に学んだ。

スラム街の女たちも立ち上がった

チンボテでもペルーのどこでも、労働者が雇用者や政府に住居を与えられたという例は聞いたことがない。地方から町へ仕事を求めてやつて来る人々は、普通、一時的に親戚の家に泊まり込む。そして次のような方法で住居をもちとる。合法的な権利はないが、定期的にスラム住人は、周囲地域の無人の非生産的な砂漠の土地を自分たちのものにするために人々を組織する。仕事のある男たちは出かけてしまうので、子どもと女性が一晩中、請求が認められるまで、警察の弾圧にも抵抗し、他のグループも参加できるように団結をし、一時的なシェルターにたてこもる。このような土地獲得の運動をするたびにスラム住人の団結力は強まる。政府の嫌がらせや弾圧は次のような過程を経て終わる。普通、交渉し和解するか、政府によって決められた場所に移ることに同意し、政府に税金を支払う代わりに、個人それぞれが土地をもらえるように手続きを始めるかに終わる。そして新しくできたコミュニティでは、さまざまな制度を求めて新しい闘争が繰り広げられる。



スラム住人が心配している問題は、なんといっても衛生の問題だ。労働者が住むスラムコミュニティには市役所によるゴミの回収制度がない。あるスラム指導者は次のように言っている。

「ゴミ捨ては許されていませんという表示を掲げて、道路からゴミを排除しようと無駄な努力をしているが、私たちはどうすればいいのですか？ どこにゴミを捨てればいいのですか？」

か？ ゴミの收拾がなされないため、ゴミは路上に山のようになっています。それは環境を汚染し、人々、特に子どもの健康に重大な影響を与えています。公園もないので、子どもたちはゴミの中で遊んでいます。その一方、町の中でも、チンボテが全国で一番汚い町の一つとして知られているので、そのイメージを変えるため、町のダウンタウン地域を美しくしようという強力なキャンペーンを市当局は始めています」(注43)

このような種類の問題は、政府の財政が特にリマに集中し、それ以外の地域のスラムの住人が利用できるようになっていないために生ずるとも言える。このことが市当局の選挙に影響する。たとえば、リマで力があるとされている候補者は、そうでない候補者よりも優勢であるが、実際は選挙区民と本当の意味での結びつきはないことが多い。スラム住人は、自分たちの利益を目的とするコミュニティを基本とした組織の統一をして、政府権力の中央集権化に対抗した。このようなコミュニティ組織の全国的共同作業は、スラム住人の多いチンボテのコミュニティリーダーによって始められたことだ。

一九八〇年九月、サンタ地方とカスマ地方のスラム住人の闘争を取り仕切っている連合が、第三回目の会議を開いた。参加者のほとんどが女性であったにもかかわらず、男性が役員に選ばれた。しかし次の会議が開かれた一九八三年までには、女性も指導力を握りやすい状態になっていた。しかし、この頃になると非常事態宣言がしかれ、大衆組織は地下活動をせざるを得なくなつた。

チンボテの女性たちは、過去十年間の間、地域規模で、政治的にも、左翼政党の中でも、活発になり始めた。一九七〇年代後半までは、これらの党は地方に拠点をもっていなかった。しかし、一

九八一年、この状況の変化を警戒して、米国エイドチームがペルーに送られた。このチームの目的は「非伝統的生産」分野で女性が仕事をする機会が増えたということが、女性の政治的態度や関与にどのように影響しているかを研究することにあつた。

この研究はアスパラガス缶詰工場の女性労働者の中で行われた。この新しい工場の創立の目的は、地域で女性を組織する必要性を小さくし、女性労働者を忙しく働かせ、左翼的な考えに走らないよう女性労働者を静めることにあつた。しかし、研究の結果で（公表はされたことはないが）、女性たちは労働を経験することによって、職場で同様の問題を分かち合うことができ、雇用者の都合で雇用されたり解雇されたりすることに怒りを感じてするため、ますます急進的な反政府的な行動をとるようになるということがわかつた。（注⁴⁴）

チンボテにおける女性たちは、企業、政府、男たちの手によって苦しめられてきた。と同時に、総合的経済的状况としては、女性の社会参加によつて、以前よりも、女性は自分たちの人間としての可能性を認識し始めたといつても過言ではない。また、彼女たちはチンボテの問題は周囲や国全体に住む人々の問題に関わつていると気がつき始めた。

〔注〕

38 カソリック救援サービス、あるいはC A R I T A Sは、ペルーで救援食糧を配る権限を与えられていくつかの組織の一つ。

39 母の日抗議の発端についての論議は後述する。

40 "Informe sobre la problemática y los últimos acontecimientos en Chinbote," Faena,

no2 (April 1981). Raul Martinez, in "Salud y interese s del imperialismo," を参照された
い。これは、ペルーで、米国 CIA が反政府活動に関わっている人々の情報を集め、足掛かり
を掴むために、あるいは別の軍事戦略のために、どのようにマラリア抑制やヘルス プロジェ
クトを利用したかを実証している。

41 Bonnie Mass, "Population Target," ではペルーの米国主催の人口プログラムの歴史を論議してい
る。この本の中で、「人口過密化」という論理説を否定し、このようなプログラムの指導の特
徴づけているのは、人種差別と性差別的態度であると非難している。

また部外者が精神的に搾取している例と言えば赤ん坊のミルクの広告だ。チンボテにあるラ
ブリマベラ コミュニティの女性団体のメンバーは私に言った。それによると、多くの女性た
ちが組織に参加するまで、市販されている白い粉が本当のミルクで、母乳は栄養的に貧しいも
のだと思っていたという。

42 この引用は、accion 2, no4 (March 1979), p.5 から取られている。ペルーの登録された死者
のうち、約三七パーセントが一歳以下の子どもである。そのため避妊法を手にいれたいという
要求は非常に大きい。しかし、カソリック教会からの圧力のために、政府の避妊センターのす
べてが一九八〇年に閉められてしまった。その時、ペルーでは、年間八万五千件の中絶が行わ
れているようであった。中絶の失敗などの結果、病院に来る女性の数が増え、危機的状況にな
った。また避妊サービスがなくなり、状況はますます悪化するばかりだった。

43 Lopez Linares, "Informe," p.36 参照。
著者と個人的に話をした。

女ひとりドケチ旅 3

辻 みゆき

迷
い

やつと手にしたバイクを売ったのはイラク行きのためだった。湾岸戦争が始まって以来、その戦争を拡大させるすべての動きに日本が加担することを反対してきた者として、戦後のイラクを自分の目で見てみたかった。あのバイクを売り払い、市民調査団の一員として、ヨルダン、イラク、イスラエルを三週間の日程で訪れた。

イラクは想像していたような瓦礫の山ではなかった。一見したところ建物の被害がほとんどなく、あれつという感じを受けた。しかしそれが現代型の戦争の姿だった。発電所、電気関係の施設や交通機関は全部破壊されて、保育器の中の未熟児が大勢死んでいた。水道施設の破壊によって不衛生な水による病気が蔓延しつつある。そこへ経済制裁による薬の欠如……と、まさに真綿でぐいぐいと首を締める形だった。

特に何の技術もない私は、この惨状を見ても何もできなかった。ただよく見ておくこと。目に焼き付けておくこと。そして見たこと、聞いたことを日本人の人に伝えること。考えたことを

と、どんなに一つのことを迷いなく続けているように見える人でも、一度ならず「やめようかなあ」つて考えてきたみたいやねえ」と言っていた。

やめて新しいことを始めるのは、今でなくともいつでもできる。それなのにこのすつきりしない気持ちは何なのだろう。自分自身のどこかでこれからも続けてポーランドに関わっていたという気持ちはあるからなのではないだろうか。ということはやはりポーランドが好きなのだ。

私はもう一度自分の中に潜んでいるポーランドへの情熱に賭けてみることにした。それには頭で考えるより行つてしまつたほうがよい。私は留学を決心した。

それにしても厄介な時期だつた。自分の悩みに集中してしまつて周りの人々に相当な迷惑と心配をかけてしまつたようだ。けれどもかえつてそういう時期に結び付きの強くなつた友人たちもいる。そんな友人は本当に一生の宝だ。

シルクロード

二泊した朝にはもう外はステップの草原となつていた。

列車の中も、蒸し暑さがカラツとした砂漠の空氣に変わつていた。夜、ひんやりとして眠りやすくなる。

そのうち万里の長城の朽ちた姿が見えてくる。ところどころ風化され、とぎれとぎれになつてはいるが、消えたと思つたらすぐその後に、もう終わりかと思つたらまたその後に、果てし

なく続いている。なにはともあれ、その長さだけで人を圧倒するものがある。こんなとてつもないものを造ってしまうなんて、人間は昔からエネルギーだつたのだなあと思つた。

西へ進むにしたがつて、土の色も、木の種類も、人の顔も変わつて行く。

この辺りの土は黄色い。木も細長くなつてきた。駅で物を売る人の顔も彫りが深くなつてきた。

窓辺に座つて上海で大量に買い込んできたみずみずしい桃をかじりながら、広大な山々、草原を眺めていると、「桃源郷も近し」という心持ちになつてくる。

私の前にはランニングシャツに半ズボンの無精髭のおつさんが、風に当たりながら美味しうに干し魚を肴にビールを飲んでゐる。

四日目に入るとそろそろ降りる人がいる。

お茶をご馳走してくれたり、紙と鉛筆で何かと話しかけてきてくれた、これからうちへ帰るところだという若者の一団が降りていく。

そのうちの一人の若者の顔を今でもはつきり覚えてゐる。彼の顔はまさにシルクロードの顔だつた。頬骨の張つたモンゴロイド的輪郭に、わずかに黄味を帯びた白い肌。褐色の瞳は奥二重の瞼の内におとなしく輝いてゐる。幅の狭い比較的小さな鼻。唇はあくまで赤く、頬は紅に燃えている。まさに「紅顔の美少年」。東洋と西洋が一つの顔に結集されているような顔だつた。

駅で物を売る人、乗りこんでくる人の顔立ちには、その若者より西の顔だ。彫の深いほとんどギリシア人のような人、アラブ人のような人。

ここはもうシンジャン・ウイグル自治区。昔からここに住んでいたウイグル族は、漢民族と顔も違えば言葉も違う。宗教も違う。彼らの宗教はイスラム教だ。十八世紀半ばに清がここを支配し、その後「中華人民共和国」に属し漢民族に支配されるようになり、中国語を話すようになったというものの、ここには全く異なる文化がある。

リユーデイのお姉さんだと思っていた女の子が、これまたリユーデイのお父さんだと思っていたおじさんと降りていった。実は一つの家族でなく、父と娘、母と娘の二組の二人連れだったようだ。そういえば中国には「一人っ子政策」というものがあつたのだ。すっかり忘れてしまっていた。それにしてもお茶を汲み交う様子、会話の感じが遠慮し合う様子もなく、いかにも自然だったので、家族だと思い込んでしまっていた。

もうすぐウルムチだ。

ウルムチ

上海から五日目、夕方六時すぎウルムチに着く。四泊五日の火车の旅はようやく終わった。楽しかったがもうこれ以上の便秘には耐えられないという限界に近づきつつあつた私はほつとした。五日間全く着替えをせず着たきりだったことや、歯を磨かなかつたことなどは全く苦にはならなかつたものの、さすがに五日間食べたものが腸の中に沈殿しているという感覚は長く耐えられないものがあつた。ともかく清潔なトイレでゆつくりしたい。

プラットホームでリユーデイとその母親が、迎えにきた父親らしき人と連れ立っていく姿を

見送りつつ、まず宿屋へ向かう。

砂漠のオアシスを少し大きくしたような所を想像していた私は、ウルムチが近代的な都市なので大いにつかりした。まるで旧ソ連のハバロフスクのようだ。建物がいやにでかくて単純剛直。情緒がない。

「安くてまあまあ」とガイドブックに書いてあったその宿屋は四、五階建ての立派なホテルだった。

一人でゆつくり眠りたい気もしたが、圧倒的な安さに負けて四人部屋にした。

一人部屋の値段も五百円ぐらいだったのだが、安いとなると、とことん安さを追及してしまうものだ。贅沢をしだすときりがなくなるのと同じだ。

ともかくまずトイレに行き、大腸の中のものをすつきりさせてからシャワーを思いつきり浴びよう。そしてぐあーつと眠ろう。

私は清潔なバスルーム、トイレ、きちんと糊のきいたシャツなどを思い浮かべながら宿屋の階段を上がった。

勢いよく部屋のドアを開けると、なんと金髪のどつぷり太ったおばちゃん二人、窓辺に座っている。

「ズドラーストヴィーチェ」

なんと懐かしのロシヤ語だ。

「ズ、ズドラーストヴィーチェ」

長らく口にすることがなかったので「今日は」という、たしか大学で一回目の授業に習った

はすのこの単語でさえとちつてしまう。

それにしてもここは中国だ。どうしてロシヤ人のおばちゃんがいるのだ。

おばちゃんたちが「ここがあなたのベッドよ」という、長らくシートも取り替えられていなさそうに思われる寢床の傍にどつとリュックを下ろすと、彼女たちは「まあこつちへきなさい」と、小さなテーブルに招いてくれた。

ピロシキだ。真正銘のピロシキだ。

おばちゃんたちはちようど夕ごはんを食べていたところだったらしい。私にも、一つ二つ恵んでくれた。ありがとう、おばちゃん！ おなか为空いていたので胃にぐぐつとしみ込んでやたら美味しかった。ピロシキの中にはいつていた肉が五臓六腑にしみわたるようであつた。蛋白質をとつたのは久し振りだ。

シャワー

私がむしやむしや食べているそばで、おばちゃんたちが深い溜め息をついているのにふと気づいた。

問うまでもなくおばちゃんのひとりが話し出した。

彼女たちは旧ソ連は中央アジアのカザフスタンから来たそうだ。ここウルムチに働きにきてまもなく帰るところだったのだが、今日駄で帰りのバスの切符を買っている時、足元に置いたカバンのなかの持ち金をすべて盗まれたそうだ。

おばちゃんは「フシヨー（すべて）、フシヨー」と言つて、がつくり氣を落としているようだった。ひどいことをするヤツだ。狙うんだつたらもつと金持ちそうな人をねらえばいいのに。こんな一泊五十円もしないような部屋に泊まつて頑張っている人を狙うなんてひどすぎる。

「まったくどうすればいいのかしら……」

そう言つたきりおばちゃんは黙り込んでしまつたので、私はともかくシャワーを浴びに行くことにした。

シャワーとトイレはそれぞれの階ごとに共同なので、私は貴重品をおなかに巻き付けたまま、タオルを首にひつ掛けて、意氣揚々と出かけた。

まず待望のトイレ。中国のトイレには仕切りが無いと聞いていたが、ここはさすが宿屋だけあつて、低く立ち上がれば隣の人がすぐ見えるものではあつたが、一応あることはあつた。清潔なトイレで五日間の便秘はすつきりとはいかなかったが少し楽になつた。

後はシャワー。シャワールームには、ドア、カーテン等、中を隠すものは一切ついていない。吹き抜けのシャワー。

まあ一人だし、どうつてことない。それに一応女性用なんだし。女性どうして恥じらつていたら銭湯は使えまい。

気持ち良く鼻歌まじりでシャワーを浴びていると、中国人のおばさんが一人やつてきた。

シャワーは一つしかないのだが、おばさんは私が浴びている横で既に服を脱ぎ始めた。

あまり待たせるのも悪いので早々にシャワールームから出て服を着はじめた。ふと目の端におばさんがしやがみ込むが見えた。と、間髪を入れず何やらシューシューと音がする。もし

やと思つたが、灰かに匂つてきた香り、時間の長さからいつて、やはりそうらしかった。

中国旅行にはゴム草履が必要、とガイドブックに書いてあつたのはこのためだったらしい。おばさんがこれほど堂々と当然のごとく用を済ませたということは、恐らくみんながそのようにしているということか。このシャワールームもこれまで何百人、何千人の人の便器に身を替えていたことだろう。足の裏がぬめつとしてくるような気がした。健康のため、特に胃病のために自分自身の液体排泄物を飲む人がいる、ということ聞いたのはそのかなり後、ドイツでだった。一般に皮膚に良いということらしい。自然療法とは全く奥が深い。

タヌキ寝入り

部屋に戻ると急に眠気が襲つてきて、取るものもとりにあえず、しかしパスポート、お金等の貴重品はしっかりと背中、おなかの両側に巻き付けたまま、大の字になつて寝てしまった。

二時間は寝ただろうか、ふと、がやがやいう声で目を覚ました。

見ると部屋の戸は開いていて、戸口で十数人の中央アジア人らしき人、ロシア人らしき人が低く何か話しこんでいる。

たぶんおばちゃんの仲間だろう。今日のことを同情してやつてきたのかもしれない。皆一緒に暗い顔で、沈んでいるのがわかる。私はまだ眠たくて、起きて自己紹介をするのが面倒臭かつたので、そのまま眠つたふりをして横になつていた。そしてときどき彼らの様子をうかがつた。



私が薄目を開いて彼らを見ると、いつも彼らは私のほうを見ているので、私は自分のことが話題になつてゐるような気がした。会話の内容も声が低くて、もともと私は聞き取りがへたなのに余計聞き取れない。

おばちゃんとその仲間を信じたいが、どうもいやあゝな気分がしてきた。どんなにいいおばちゃんでも、絶望に駆られて理性を失うとか、ありえないとはいえない。

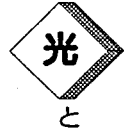
私はもはやゆつくり眠れる気分ではなくなつてきた。いらぬ心配だということは半分以上わかつてゐるのだが、こちらでも旅に出たばかりで緊張している。「海外旅行犯罪例」を読んだせいで人を疑いやすくなつてゐる。

その夜はまんじりともせず、次の朝早々にシルクロードの街、トルファンに向けて出発することにした。

しかしあのピロシキの味は今でもはつきり覚えてゐる。



看護婦



と



(20)

後藤登茂子さん (1)

増田れい子

これまで五十人に近い看護婦さんを取材してきた。

どうしてこんなに病むひとに対してやさしくできるのだろう、何ものをもいとわないのだろう、逃げ出してしまわないのだろうと、涙ぐましく思えるひとたちばかりだった。

ひとりひとり、それぞれに印象が深いのだが、後藤登茂子さんとは三日間も病棟で取材させていただいた関係でとりわけ心にくいこんでいる。

静かなひとのように見えて、内側には闘争心がうず巻いている。闘争心というのは、この患者をそうやすやすと死の手に渡してなるものかという、死と患者の間に仁王立ちする姿勢である。

というのも、後藤さんの担当するその病棟は、重症者が多いのだった。

一千床の巨大な公立病院である。いま注目を集めている骨髓移植が可能の、先端をゆく病院のひとつだ。看護婦は八百人いる。

後藤さんはこの病院に一九七三年四月から勤めている。看護婦歴すでに二十一年をこえたヴェテ

ランで、いま病棟婦長に次ぐ主任の地位にいる。一九五四年の生まれだから年齢は四〇歳。独身を選択した。

ナースステーションが中央にある。廊下をへだててこのナースステーションをとりかこむかたちで病室がつらなっている。四床ずつの病室が十二室ある。他に重篤な患者の個室が二つあつて、ぜんぶで五十床。

ナースステーションからはとどの病室の患者の様子が常時見てとれる設計になっている。

床にはカーペットが敷きつめられて、医師のスリッパの音や看護婦の走りまわる靴音はカーペットに吸い込まれてしまう。ベッドはあげおろしの操作がラクにできるギャツジつきベッドで、マットレスは無圧のを用いている。ベッドとベッドの間隔は、レントゲンの器械がラクに入るように設計され、共用だが洗面台が二つついている。シーツ交換は毎週一回水曜日が定期で、汚したら随時交換する。病衣は貸してくれる。トイレは共用。

私が取材に入つたのは、一九九四年二月半ばのことで、そのときは五十床のうち男性患者三十三人、女性患者十七人で、うち男性一女性一が重篤、個室に収容されていた。とくに女性の患者は意識不明の状態が続いていた。

他の四十八人についても、まったく動けない患者が七人、排泄介助が必要な患者が二十一人、多少は動けても寝返りなどが不能のため体位交換を定期的に介助する必要がある患者が十一人、MRSAをひきおこしている患者が六人などと、目の離せない重症者が多いのだった。

病名別にいうと、白血病患者が二十五人、神経内科の患者が同じく二十五人と半々であつた。

白血とよんでいるのは、要するに血液のガン、白血病である。同じ白血病でも急性と慢性の別が

あり、また白血病細胞の種類もさまざまあつて、骨髄性、リンパ性、単球性などにわかれる。

悪性リンパ腫や悪性貧血も白血病患者のうちだ。

神経内科は、脳出血、脳梗塞、てんかん、ヘルペス脳炎、筋萎縮性側索硬化症、髄膜炎など。どちらにしても、基本的な生命維持のむつかしい患者たちであり、そのケアも難度が高い。看護婦は病棟婦長以下二十九人。他に要員といつてベッドづくりやシャワーの世話その他の雑務、器具の掃除などを主にこなすひとが二人いる。

病棟婦長を除いた看護婦二十八人をA Bのチームにわけ、Aは神経内科の患者のケア、Bは白血病患者のケアを担当する。

病棟婦長と主任の後藤さんの二人は日勤が通常、他の看護婦さんたちは日勤（午前八時―午後五時）日勤―深夜（午前八時―午後五時、午前零時―午前九時）準夜（午後四時―午前二時）日勤（午前八時―午後五時）公休という勤務パターンを繰り返し、平均夜勤（深夜準夜合わせて）月八回、公休月六―七回を何とか確保している。夜勤は三人体制。

この二十九人が実働メンバーで、実は他に産休中が一人、病休が一人、育休中が一人いた。

勤続別にみると、病棟婦長二十三年を筆頭に、後藤さんの二十一年について、十五年一人、十三年二人、十二年が一人、十一年一人、八年二人、七年一人となつていて、半数以上が六年以下。実働メンバー中の既婚者は二人。産休、育休中の二人を加えてお母さん看護婦は計四人。月八回の夜勤をふくむ過密な病棟勤務は、家庭を持った看護婦さんにとつて何ともバリアが高過ぎるのだらう。

しかしさすが公立病院、この病棟の看護婦さんの勤続年数は平均をわずかながら上まわつている。（看護協会が一九九一年に調査した結果では平均勤続年数は六・一年）

後藤さんが重点的にケアする患者がいた。もつとも重篤な患者、白血病で骨髄移植を受けたAさん（女性）である。

Aさんはもはや意識不明の状況であつた。

ベッドに仰臥したAさんのアタマは丸坊主でやや浅黒い皮膚のその顔は卵型にととのい、鼻梁は高く、見開いた瞳は高熱のためとろんとしているがおどろくほど大きく、長いまつ毛が人形のようなだった。

唇は荒れてもとの形を想像するのはむづかしいほどに変形していたが、後藤さんによれば数日前はもつと状態が悪く、唇はタラコのようにふくれあがつていたという。

彼女のからだ中の粘膜という粘膜がはげしい炎症に見舞われていた。

後藤さんは、イソジンをふくませた綿で口のなかからのどにかけていてねいに消毒し、ひっきりなしにもつれるタンを吸引しようとする。

Aさんは、のどをせいせいせいならし、苦しうに手を泳がせてイヤイヤをする。歯をくいしばる。耳にクチを寄せて、「おねがい、クチをあけて下さいAさん」とよぶ。よび続ける。けなげにその声にこたえてかすかに開けた歯と歯の間へタンを吸引する細いクダをさしこみ、タンを吸い出す。わずかに開いたその唇、しかしAさんにとっては死力をつくして開けた唇であつたろう。

泣くようなむせぶような声で苦痛をあらわすAさん。泳がせている手の指は節が細く、美しい手の持ち主と見てとれた。まつすぐに伸ばした脚もすんなりと長く敏捷そうだった。

しかし、その皮膚にはいつたい何が原因なのであるうか、青黒いカビのようなものが浮いている。そうして、背部を清拭する後藤さんの手の下には、すさまじい褥創がバツクリとクチを開けていた。

こんな大きな褥創を目のあたりにしたのは、はじめてであった。

「昨日から痛い痛い」と訴えてたのは、きつとこの褥創のせいだったんでしょ」

後藤さんは、つきそっているAさんの母と夫に低声でそういった。

私の目には、Aさんの肉体は内から外からとめどなく崩壊を続けている……とうつつた。

どんなに苦痛な一刻一刻であろう。どれほどの苦痛に喘いでいるか、誰にそれが理解できるだろうか。

病むとは何と孤独なたたかいか。

私は、Aさんをひと目見たとき、もはや助かる命ではないだろうと思った。それは不遜な他人の目であり、専門家でも何でもない者の、無知の目であつたのだが、後藤さんは、違つていた。

後藤さんは、絶望を寄せつけなかった。

「一月の末はほとんど危篤状態だったんです。でも、奇跡的に保ちなおしてここまで来たんです。私、守つて見せる」

青白くすき通つた肌を一層ひきしめて、後藤さんは抗うようにいった。

Aさんは慢性白血病で、前年の秋に入院、年の暮れに、骨髓移植を受けたのだった。家族のなかには、合う型がなくて、骨髓バンクからの提供を受けたのだが、移植手術は成功した。

しかし、すさまじい拒絶反応が起こつてしまった。白血球の型のなかのただ一つが適合していなかったが、それはクリアできると一般的には考えられているという。Aさんもそのことは承知で、移植をのぞみ手術を受けたわけだ。

骨髓移植は白血病の克服にもつとも有効適切な方法として容認されている。その成功率は六〇―

七〇%と一般には信じられている。しかし、決して百%成功するものではない。

だが、医師も患者もバラ色の夢に賭けるのだ。Aさんも、この夢に賭けた。後藤さんによるとAさんは、この病棟内で評判のすばらしい患者だった。

白血病であることを十二分に識っており、それなりに覚悟を決めて、前向きに生きるため移植をのぞんだ。自分の考え抜いた末の選択として移植を受けたのだった。

だが、結果は誰も予測しなかった拒絶反応の伏兵に出あった。

肝機能がみるみる悪化した。腹水がたまり胸水が心臓を圧迫、心不全につながって行った。MRSAに襲われた。発熱、肺炎と、状態は悪化の一途をたどり、ついに下血がはじまった。

私が後藤さんの取材をはじめたその日、Aさんは三百グラムの下血に苦しんだ。医師は胃からの出血と診断した。尿（導尿）にも血液がまじっている。ときおり下顎呼吸もまじる。チアノーゼこそないが、下顎呼吸は、いい徴候ではないのだ。呼吸数は一分間に八―九回にまでおちている。

後藤さんと過ごした三日間（一日は深夜勤であった）、ひんばんに、Aさんのベッドサイドに私も立った。

何をしてあげられるわけではない。かたちのいい、しかしいまとなつてはガラガラに荒れた下肢をそつと撫でてあげるだけの、ナサケないケアしかできない私であつたが、後藤さんは、Aさんをはげまし続けた。

Aさんは一度だけ、私にもわかるほどの明瞭な口調で

「タスケテクレ」と訴えた。

その声の調子、トーンを、私は決して忘れないだろう。いまでも耳もとにひびいてくる。

「タスケテクレ」。

じつと見つめる夫と母。病室の片スミに簡易ベッドのようなものを入れてそこへ交替で寝て、二十四時間、Aさんのかたわらにつきそっていた。二人とも静かだった。どこの誰ともわからぬ私に對しても微笑を向けてくれた。

後藤さんにきくと、夫と母は、Aさんの状態を見て、もうこれ以上無理な延命策はとらないでほしい、ただ苦しい痛いというその苦痛だけはどうにかして軽減してやってほしいと頼んでいた。

一たん危篤におちいつたが、そこから奇跡的に回復を見せたときを見計らって、病棟部長と後藤さんはAさんの二人のお子さんを病室によんだ。Aさんとの何か月ぶりの対面であった。

Aさんは丸坊主になっていた。二人のお子さんは丸坊主のAさんを見て、「イヤ」といつて泣き出したそう。悲しかったのだろう。Aさんもそのことをひどく気にしていたらしい。ショックを与えてはいけなはずと、こどもたちを病室によばなかつたのだ。

「でも、私たちはもし最悪のことが起きた場合、お母さんとまつたく会わずに別れるのと、そのさいこの様子を知って別れるのと、どちらがこどもにとつて大切か、ということを考えて、思いきつて、面会にきてほしいと提案したのです。

お子さんたちが病室に入ってきたときの、Aさんの顔。よろこびが満面にひろがりました。こどもにあうよろこびつてこんなにも大きく深いものかと、私は感動しました」

後藤さんの取材を終えて病棟を立ち去つてからも私はAさんのその後のことが気になっていた。

ためらいながら後藤さんにAさんの消息をたずねたのは、一か月もあとのことだったろうか。後藤さんは、ちよつと息をとめて「亡くなつてしまったの」といった。

私が後藤さんと別れた一週間後の朝、あたらしい看護計画をたてて、Aさんの病室に入ろうとすると、部屋はカラになっていた。

その前夜、日曜日の夜、状態が急激に悪化した。大量の下血があり血圧が下がってついに還らぬひととなった。

十七歳で肝臓を病み、白血病に至った。入院はこんどで三回目だったそうだ。

私には、抑えようのない疑問、疑念に近い感情がわき上がってやまなかった。

成功率六〇―七〇％でしかない移植を思いとどまる契機を誰も提示しなかったのはどうしてなのか。

移植の可能性を私たちはあまりに信じ込み過ぎてはいまいか。もし、移植しなかったらどういう経過になったろうか。たしかに白血病は難病である。病いとどうたたかうかはまさに病者の選択にかかわることであるが、この場合選択肢は十分に吟味されたであろうか。

後藤さんだったらどういう選択をしたろうか。そんなことをたずねてみたかった。

「骨髓移植、わたしの病院では最初のうち百％に近い成功率で、そのすばらしさに感動しました。ですからわたしの骨髓も提供しようと、書類をととのえたぐらいです。でもこのところ成功率にかげりが出てきました。むづかしい問題ですけど、わたしの場合に限定していえば、わたしは“自然”が一番いいと思います」

つまり、もし後藤さん自身が白血病にかかってしまったから移植ではなく共存の方途を選ぶだろうということ、と私は受けとった。

(この項つづく)

ふりむけば……

はつらつひろこのかけ足日記

市川ひろこ著

インパクト出版会刊

「必ずしも無条件ではないけれど、今は女性が自らの生き方を選択できるようになった。自ら選ぶということは、流れのままに身を任せていることから比べ、責任や苦しみも背負っていかなければいけない。しかしまた、自分自身を充分に生かせる喜びも大きい」——四十年の役所生活を、パイオニアとしての道を切り拓きつつ、ひたすらに生きた著者の実感がこもった言葉だ。

一九五〇年、小田原市役所に就職してから、一九九一年三月、定年退職するまで、キャリアを地道に積み重ねていく著者の足跡が、時代の流れを織り

込みながら、丹念に振り返られている。民主部厚生課勤務、三級四号俸（三〇九六円）をスタートに、国民健康保険課、税務課、競輪場、社会教育課、住民票の電算化事業担当、統計係、最後は、小田原市役所初の女性管理職として中央公民館館長の仕事の中心が具体的に語られる時、四十年の時間と、役所の仕組み、著者の仕事に対する姿勢などが重い手こたえをもつて残る。

第二次大戦後すぐの、まだ女学校と呼ばれていた学生時代のはじけるような解放感が印象的な導入部から、テニスに熱中した青春時代。全国ランキング第七位の成績を残した実力は、困難な仕事にもねばり強く立ち向かう底力を培うと同時に、自分を燃焼させる喜びも教えてくれただろう。「角膜ヘル

ペス」で失明寸前の危機を乗り越えた力は、その後の生き方に影響を与えただろう。そんな中で、社会教育との出会いは、著者の人生に大きな意味を持ったものではなからうか。

社会教育の仕事は、組織の中にあっても担当者個人の力量が大きく影響するという。一九七六年、前例がないとしぶる上司を何とか説得し、社会教育主事講習に参加する。「社会教育の主体は住民で、住民がだれでも、いつでも、どこでも自由に学習することができるよう「奨励」していくのが行政」という基本を学ぶ。その後、母親クラブや成人式のやり方を改革し、「市川房枝八七歳の青春」の上映会を成功させ、各種の講座を組織する。女性の生き方、女性問題に深い関心を持ついた著者は、社会教育と女性の生き方を仕事の核に据える。研究熱心と積極さ、

充実した仕事内容が評価され、中央公民館館長に任命される。やりがいがあるとともに、苦勞も多かっただろう。

男性はキャリアを積み、管理職になるためのノウハウを有形無形の形で学ぶが、女性にはその機会は皆無だったという女性たちのくやしさの一端は、著者がこの本を後に続く人に残せたことによつて、少しは解消できるのではないだろうか。

自分の持場で誠実に努力を続けることで、自ら道を切り拓いてきた著者の四十年の仕事の記録である。

(宮寺有美子)

(B6判・二五三ページ 一六四八円)

「良い子」があぶない

薬物中毒になった若者の生活と意見

竹村登茂子著

築地書館刊

「依存症」ということばを、最近よく目にするようになった。「自我を自分でコントロールできにくくなっている人たちが大変増えたという印象をもつ」と精神神経科医という。家庭内暴力、摂食障害、アルコール依存の人たち……。

本書は、「薬物依存」に関して新聞に連載した記事に、追加取材を加えてまとめられた。連載記事は、薬物依存にいたるプロセスを、「彼らの心のひだにまで光をあてて描いて」アップジョーン医学記事賞特別賞を受賞している。

薬物依存症者リハビリ施設、女子少年院などの取材を通して、著者が感じたものは、薬物依存は落ちこぼれかー経済大国は幸せなのか、という疑問だった。「社会はかつて、自分を包みこんでくれる存在でもあったはずなの

に、現代では、社会が人を査定し、そのよい結果を得た人だけが幸せに暮らしていきけるかのような錯覚を持つことが多い。」——社会と個の関係。家族と個の関係。ある部分では、ギシギシときしむのが見え、ある部分では、目に見えない形で崩壊してしまっている関係が、依存症というベールの向こうにすくて見える気がする。

薬物を使う理由の一つを「現実からの逃避」と説明する人が多いという。「依存の成立」には、自分の背景にある不安を和らげようとする意志が介入することが一つの要件になるという。

不安と依存。幼想と現実のギャップ。「律義で懸命でどこか不器用な依存症の人たち」こそ、この時代の不安を深く生きている人たちかもしれない。

(宮寺有美子)

(四六判・一七四ページ 一七〇〇円)

「介護法」の要綱がまとまりました

家族が病気でも休暇がとれない：少し長く休むとクビになる：現状への対策として、「介護休業法」が要求されていました。その骨子が婦人少年問題審議会できまりました。この要綱は「介護休業法」という新しい法律ではなく「育休法の一部を改正」というかたちで育休法の中に盛り込み、育休法の法律名も変えるという妥協案になっていますが、家庭責任を持つ労働者の、家事と職業の両立を保障しようとするILO第一五六号条約を裏づけるものとして、一つの前進にはなりそうです。ただし、実施はなんと一九九九年から。今度の国会での論争が見ものです。

原文は下記のとおりですが、注目点としては、

◆休業期間が三か月——連合は一年を、社会党は三か月を、要求していましたが、とりあえず三か月ということになりました。労働省が保障するのは三か月、あとは厚生省のゴールドプランなどの充実が課題になります。

なお、新進党は、公明党の案を基にして「一年」を要求する方針であることを明らかにしています。

◆すでに公務員には「介護休業」があり、大企業では組合との協約で実質的に認めているところが大部分ですが、中小零細企業対策として打ち出されたものです。

◆結局休むのは女性——ということにならないよう、男女どちらもとれる休業保障になっています。兄弟が何人もいるような場合、一人が三か月ずつ、何人かで持ち回りでとるなどの方法も考えられます。

◆配偶者であれば、内縁関係の人でも認められます。

◆事前の予告期間は、労働者側委員が「二週間」を主張、経営側は「一か月」で対立しましたが、中をとって「二週間」になりました。

◆8の(5)労働大臣が指定する公益法人とは、「二十一世紀職業財団」のことです。

◆9の委託募集は、本来なら「許可制」のところを「届出制」に緩和されています。

◆休業中の所得保障がないなど、いろいろ問題がありますが、

女子労働者の、とりあえずの緊急避難として、これまでの「退職するほかなかった」事態よりは、改善されるものと思われる。

◆「一九九九年からの実施ではあまりに遅い、中小企業には三年間の猶予を認めて即刻実施を」との声もありましたが、「育休法の側から考えても、大企業と中小企業の違いに差を設けるのはよくない」という〈連合〉の強い主張で一律実施に。このため一律に施行が遅くなった、という内幕もあつたようです。

◆労働者の側からの声はまだ高まっていらないようですが、女性の視点で意見を出していきたいものです。

育児休業等に関する法律の一部を改正する法律案要綱（骨子）

1 題名

法律の題名を「育児休業、介護休業等、子の養育又は家族の介護を行う労働者の福祉の増進を図るための措置に関する法律」に改める。

2 目的

この法律は、育児休業及び介護休業に関する制度を設けるとともに、子の養育及び家族の介護を容易にするため勤務時間等に関し事業主が講ずべき措置を定めるほか、子の養育又

は家族の介護を行う労働者等に対する支援措置を講ずること等により、子の養育又は家族の介護を行う労働者の雇用の継続及び再就職の促進を図り、もつてその職業生活と家庭生活との両立に寄与することを通じて、その福祉の増進を図り、あわせて経済及び社会の発展に資することを目的とする。

3 基本的理念

（一）この法律の規定による子の養育又は家族の介護を行う労働者の福祉の増進は、子の養育又は家族の介護を行う労働者各人が職業生活の全期間を通じてその能力を有効に発揮して充実した職業生活を営むとともに、育児又は介護について家族の一員としての役割を円滑に果たすことができるようにすることをその本旨とする。

（二）育児休業又は介護休業をする労働者は、その休業後における就業を円滑に行うことができるよう必要な努力をするようにしなければならない。

4 関係者の責務

事業主並びに国及び地方公共団体は、3の基本的理念に従つて、子の養育又は家族の介護を行う労働者の福祉を増進するように努めなければならない。

5 育児休業

（従前どおり）

6 介護休業

(1) 労働者は、その事業主に休業開始予定日と休業終了予定日等を明らかにして申し出ることにより、連続する三月の期間を限度として、常時介護を要する対象家族（配偶者（事実婚を含む。以下同じ。）、父母及び子（これらと同様の関係にあると認められる者を含む。）、配偶者の父母）一人につき一回の介護休業をすることができる。この場合、事業主は、労働協定で介護休業をすることができないものとして定めた一定範囲の労働者が申し出た場合を除き、介護休業の申出を拒むことができない。

(2) 労働者が介護休業の申出をし、又は介護休業をしたことを理由とする解雇を禁止する。

(注) 申出期間（使用者による休業開始日の繰下げ可能期間）は二週間。労働者は、休業開始予定日の前日まで、は、休業申出の撤回ができ、その後の再度の申し出は一回に限り可。

7 事業主が講ずべき措置

(1) 労働者への育児・介護休業中及び休業後の労働条件に関する事項の周知及び雇用管理上の措置

イ 事業主は、育児・介護休業中及び休業後の労働条件に関する事項を定め、その周知及び休業を申し出た労働

者に対する明示に努めなければならない。

ロ 事業主は、労働者の休業申出及び休業後における就業が円滑に行われるようにするため、配置その他の雇用管理等に関して、必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

(2) 勤務時間の短縮等の措置

イ 一歳未満の子を養育する労働者に関する措置（従前どおり）

ロ 事業主は、常時介護を要する対象家族を介護する労働者で介護休業をしないものに関して、連続する三月（介護休業した期間があればそれと合わせて三月）の期間を限度として、勤務時間の短縮等の措置を講じなければならない。

(3) 一歳から小学校就学始期までの子を養育する労働者等に関する措置

イ 一歳から小学校就学始期までの子を養育する労働者に関する措置（従前どおり）

ロ 事業主は、家族を介護する労働者に関して、介護休業制度又は勤務時間の短縮等の措置に準じて、必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

(4) 事業主は、妊娠、出産、育児及び介護を理由として退職

した者（以下「育児等退職者」という。）について、必要に応じ、再雇用特別措置を実施するように努めなければならない。（５）労働大臣は、（１）から（４）までの事業主が講ずべき措置に関して、その適切かつ有効な実施を図るための指針となるべき事項を定め、これを公表する。

8 対象労働者等に対する支援措置

（１）国は、子の養育又は家族の介護を行う労働者の雇用の継続その他その福祉の増進を図るため、事業主その他の関係者に対して労働省令で定める給付金を支給する等の必要な援助を行うことができる。

（２）国及び地方公共団体は、対象労働者に対して、その職業生活と家庭生活との両立の促進等に資するため、必要な指導、相談、講習その他の措置を講ずる。

（３）国は、育児等退職者に対する再就職の援助を行う。

（４）地方公共団体は、必要に応じ、勤労者家庭支援施設（子の養育又は家族の介護を行う労働者の雇用の継続その他その福祉の増進を図る事業を総合的に行うことを目的とする施設）を設置するように努めなければならない。

（５）労働大臣は、公益法人を指定して、上記業務の全部又は一部を行わせることができる。

9 委託募集の特例

一定の基準に合致すると認定された事業協同組合等が、その構成員たる中小企業者の委託を受けて育児・介護休業取得者の代替要員の募集を行う場合は、許可制を届出制にするなどの特例を設ける。

10 その他

（１）労働大臣は、労働者の職業生活及び家庭生活に関し必要な調査研究を実施する。

（２）労働大臣は、この法律の施行に関し必要があるときは、事業主に対して、報告を求め、又は助言、指導若しくは勧告をすることができる。

（３）国営企業に勤務する国家公務員及び地方公務員に関する特例を設ける。

11 施行期日等

平成七年十月一日から施行。ただし、介護休業に関する部分及び10（３）については、平成十一年四月一日から施行。

12 関係法律の整備

労働基準法（平均賃金の算定方法、年次有給休暇の成立要件についての所要の整備）、男女雇用機会均等法（職業生活と家庭生活との調和に関する規定、再雇用特別措置、働く婦人の家等に関する規定の削除等）など関係法律について所要の整備を行う。

あなたは別姓賛成？ 意見を法務省へ

婚姻・離婚制度や、結婚後の「姓」の問題を盛り込んだ「民法改正要綱草案」をめぐる、さまざまな議論が活発になっていますが、法務省では一月十七日から三月末日まで、別姓問題について、FAXで一般人の意見を受付けることになりました。

FAX番号は03-3592-7786です。

平成六年度「女性の学習活動史研究」入選発表

財団法人日本女子社会教育会が募集していた「女性が自ら切り開いていった学習活動史」についての研究レポートの入選作が決定しました。

入選作は次の二編。

「泉州の繊維産業に働く若年女子労働者たちへの取組み」

荒木タミ子（大阪府）

「自学自給——自己成長への希求」

小柴 昌子（長野県）

同会ではさらにレポートの作者を招き、報告者として発表・

討議の会を開きます。

・2月22日（水）午後1時半—4時半

・日本女子会館5階講義室

・参加費 二千元（資料代）

参加ご希望の方はハガキに住所・氏名・年齢・職業（所属）電話番号を明記して左記までご連絡下さい。

問い合わせ・申し込みは、

（財）日本女子社会教育会「研究レポート」係

〒105 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館

TEL 03-3434-7575

〈あと〉北京会議への旅に「一緒しませんか

Aコースは8月29日（火）—9月8日（金）

全会議参加（10泊11日）

Bコースは8月30日（水）—9月3日（日）

開会式から三日間参加（4泊5日）

土・日に万里の長城と芦溝橋コース組みで、Aは約二十万円、Bは約十九万円の予定。Aコースは、終了後、各地の見学ツアーも可能です。いま、現地の方とツアーの構想を練っています。ご希望の方はご連絡下さい。



NEWSLETTER

第 3 号
'94.11.15



編集・発行 第4回世界女性会議日本国内委員会NGO部会

国際人口・開発会議に出席して

樋口 恵子

国際人口・開発会議日本政府代表团顧問・女性と健康ネットワーク代表

私は、女性と健康ネットワークの代表と同時に今回初めてNGOから日本代表团に顧問として加えられた3名の内の一人として、この国際人口・開発会議とNGOフォーラムに参加いたしました。

今次会議は、前々からNGOの重視が強調されてきましたが、河野副総理も日本政府代表演説の中で、政府が必ずしも十分に対応できないところで地域に根づいた活動をしているNGOの支援を強化していきたいと言及されたことが、まず印象に残りました。

我が国のNGOは、11団体 100余名がNGOフォーラムに参加し、その中で、女性と健康ネットワーク、高齢社会をよくする女性の会、家族計画国際協力財団（ジョイセフ）、市民フォーラム2001の4つのNGOがそれぞれ分科会を持って発表及び交流を行いました。また、女性と健康ネットワーク、ジョイセフは、ブースを使用したの展示等の活動も行いましたが、ブースの設置により各国NGOの様々な意見が集まってきて、言ってみれば世界に開く目と耳を持つことになることを実感した次第です。

そのほか、9月7日には初めて河野副総理とNGOとの懇談会を、NGOフォーラムの会場で開催することができ、要望を直接お話しできたことは有意義であったと思います。

また、我が国出席者の男女比を、NGOと政府代表团に分けて出しましたところ、NGOフォーラムは、103人中男性23人で女性の比率は80%を占めますが、政府代表、代表代理、顧問の内では女性比率25%となりました。まさに男女比率が逆転しておりまして、人口、開発、環境といった重要かつ地球レベルの課題に女性NGOが参加しなければどうにもならないと痛感しました。

最後に、政府代表团にNGOが加わったことによる一番の変化は、NGOに対する情報の伝達が早くかつパイプが太くなってロビー活動がより活発にできたことが挙げられます。

会議そのものについては、一つはODAを女性

の視点から見直す意味での原点の会議ではなかったかということ、リプロダクティブ・ライツ／ヘルスの概念を国内において広めたいに討議をしていく宿題が残されたことの2点を強く感じました。我々NGOの活動がますます重要な役割を果たすべき時であるとの思いをあらたにしたところです。

—NGO部会主催「国際人口・開発会議等について聞く会」における講演より抜粋—

[注] 国際・人口開発会議（ICPD: International Conference on Population and Development）は本年9月5日～13日まで、カイロで開催されたもので、政府間会議と同時に開催されたNGOフォーラムと併せ、世界各国（180か国）及び多数の国連・国際機関、NGO関係者等を含め総計約2万人が参加した。

我が国からは、河野副総理兼外相を首席代表とし、関係省庁関係者、7名の国会議員、3名のNGO関係者（樋口恵子・女性と健康ネットワーク代表、岩崎駿介・市民フォーラム2001代表、近藤男・家族計画国際協力財団）からなる総勢55名の代表团、及び100余名のNGO関係者が出席した。

目次

- ・ 国際人口・開発会議に出席して……1
- ・ ヨーロッパ地域準備会合に出席……2
- ・ 国連総会河野副総理演説……2
- ・ 五十嵐・サンチャゴ談話……2
- ・ ナショナル・レポートの提出……2
- ・ 女性会議を考えるフォーラム開催……2
- ・ サンチャゴ事務局長講演（抄）……3
- ・ フォーラムへの受入れ態勢等……5
- ・ NGOフォーラム受付開始……5
- ・ 第1回東アジア女性フォーラム……6
- ・ 姉妹を北京に送ろう……6
- ・ ジャーナリストの参加許可……6

ヨーロッパ地域準備会合に出席して

国連婦人の地位委員会日本代表 有馬 真喜子

第4回世界女性会議のためのヨーロッパ地域・ハイレベル準備会合（北米を含む。）は、10月17日から21日までウィーンで開かれた。事務局のECE、ヨーロッパ経済委員会では、当初、参加者を300名程度と見積もって会場などを設定していたが、蓋を開けてみると希望者はうなぎ登りで、急遽会場を変更するという騒ぎだった。結局参加者はメンバー国45カ国、オブザーバー国8カ国、国連機関・専門機関等に加え、諮助的地位を持つNGO70余団体、それ以外のNGO220余団体等、合わせて1600人近くに上った。諮助的地位を持つNGO以外のNGOの参加希望は500団体に上ったが、締切との関係などで、認められたのは約250団体とのことだった。

会議では議長に開催国オーストリアの女性副総理担当大臣ドナル氏を選び、「ナイロビ将来戦略の点検と評価」「女性と経済」「公的生活と統治にお

ける女性」「行動綱領」のECEのインプット」などの議題で討議が進められた。

今回の会合のスターは、何といってもスウェーデンだった。新しい内閣で22人の閣僚が男性11人、女性11人と、男女同数になったのである。モンセラ第4回世界女性会議事務局局長はスピーチの冒頭で「スウェーデン、おめでとう！」とお祝いの言葉を贈り「意思決定レベルへの50%の参加は私達の希望であり夢であったが、今やそれは現実になった」と述べた。スウェーデン代表モナ・サリン副総理兼平等問題担当大臣は「これはわが国の歴史でも初めての」と語り「このバランスは、社会のあらゆるレベルで平等を達成していくためのモデルとして選択された」と述べて満場の喝采を博した。サリン副総理は、30代後半か40代前半のキューリーな女性だった。

ヨーロッパ地域準備会合で採択され

た「行動綱領」は、これまで婦人の地位委員会やアジア太平洋地域準備会合で用いられた「行動綱領」とはかなり内容が異なっている。

まず「重大関心領域」の第一は「女性の権伸の伸長及び権伸の不足」である。続いて「貧困の女性化」「持続可能な開発という面での女性の経済への貢献の認識の不足及びその潜在能力の助長の不足」「雇用と経済機会における実際の男女平等の不足及び雇用と家庭責任を両立させるための政策と手段の不足」「公的生活への女性の参加の不足」「政策や法律を告知して男女平等の処遇を保障するための統計システム・データベース・方法論の不足」「女性の地位向上のための地域内及び地域間のネットワークと協力の不足」となっている。

「行動綱領」のタイトルは「変化する世界における女性」である。

そのタイトルにふさわしく、会合では、ヨーロッパ各国での右翼の台頭に対する懸念や、経済システムの変化の過渡期にある東欧の国々への配慮も多く語られていた。

第49回国連総会における

河野副総理兼外務大臣一般討論演説

「我が国としては、社会の安定のため、国際協力を通じた人材育成並びに女性の地位の更なる向上の重要性を深く認識しており、このような観点から明年の社会開発サミット及び世界女性会議の成功を重視し、国連諸機関が行う「開発と女性」を含めた社会開発分野に関する活動に積極的に協力いたします。」（該当部分抜粋）

なお、日本政府として9月27日のこの演説以降「世界女性会議」の名称を用いることとしました。

五十嵐女性問題担当大臣

サンチャゴ事務局長と談話

五十嵐広三内閣官房長官・女性問題担当大臣は、10月24日、官邸を訪れたアイリーン・サンチャゴ女性NGOフォーラム北京'95事務局長と談話した。

五十嵐長官が「2万5千人という大きな会議で日本からも多く参加すると思います。御苦労も多いと思いますが、準備が順調に進むよう、心から成功を

お祈りしています。」と労をねぎらうと、サンチャゴ事務局長は「女性問題についてお力になっていただき感謝します。北京にはぜひ来ていただきたい。これからは女性だけでなく、男性の協力が必要です。」と答えた。

日本国政府ナショナル・レポートの提出と刊行

日本国政府ナショナル・レポートの提出と刊行

第4回世界女性会議に向けて、政府は、国連の要請及び指針に沿って、我が国の女性の現状を記述した国別報告（ナショナルレポート）を取りまとめ本年9月に国連に提出した。国連では、各国から提出された国別報告を原資料として、ナイロビ将来戦略の実施状況を中心に女性の現状を取りまとめ、第4回世界女性会議に提出する予定である。

なお、本報告書の取りまとめに当たっては、国連の指針に従い、女性団体など広く国民各層から意見を取り入れるため、第4回世界女性会議日本国内委員会NGO部会の主催により意見を聴する会を開催した。

この報告書の英文・和文は、「第4回世界女性会議に向けての日本国政府ナショナル・レポート」として、11月

下旬、大蔵省印刷局より定価850円で発行されている。

「第4回世界女性会議を考えるフォーラム」の開催について

第4回世界女性会議の開催に向けて、全国的に女性問題への活発な取組がみられる。

そこで、国及び地域におけるそれぞれの取組について相互の情報交流を行うとともに、同会議に向けての一般の認識の喚起に資するため、第4回世界女性会議日本国内委員会・総理府及び開催市の共催で「第4回世界女性会議を考えるフォーラム」を開催することとした。

今年度の男女共同参画宣言都市奨励事業実施市である長野県塩尻市と兵庫県宝塚市の2市において、下記の日程でNGO部会委員等によるシンポジウムを開催する予定である。

〔塩尻市〕

平成7年1月30日（月）

塩尻市総合文化センター

〔宝塚市〕

平成7年3月1日（水）

宝塚市女性センター

女性の目から世界を見よう

女性NGOフォーラム北京'95事務局長

アイリーン・サンチャゴ

地球規模課題に女性の目から展望を

(講演の部)

NGOはサービスから政策まで、全ての分野で活動を展開しています。実際、市民社会がNGOなしに機能することは非常に困難です。社会におけるNGOの役割を認識することが重要だというのはこのためです。国連について言えば、1949年以来、国連会議には全て政府とは無関係のフォーラムが併設されています。これは、国連の会議で議論されている問題に対して、NGOが意見を表明する機会を得るようになるための措置です。

国連憲章には「われわれ国連傘下の各国政府は、」と書かれているのではなく、「われわれ国連傘下の各国民は、」と書かれています。NGOが国連に参加しなければならない理由はここにあります。なぜならNGOは人々を代表しているからです。この点については、日本政府は非常に注目すべき存在です。1957年以来、国連第3委員会に、日本政府は常にNGOを公式代表団の一員に加えています。そのため、政府とNGOの間にパートナーとしての関係ができています。私たちは、役割は違っていますが、同じゴールに向かって進んでいるのです。

来年、北京で開かれる女性NGOフォーラムとはどのようなものなのでしょうか？ 私はこれを、イベントであると同時にプロセスであると捉えています。

北京でのフォーラムは、私たちの住む地域で開催される、女性問題に関する最初の世界会議であるという点でも重要な意味を持っています。また、NGOフォーラムではタイ人のスバトラ・マセディットさんとフィリピン人の私代表を務めています。私たちは二人ともこの地域の出身です。つまり、私たちは、北京での会議はアジアの会議とも言えると考えているのです。

次はプロセスの部分についてお話ししたいと思います。この会議の準備のため、5カ所での地域会議が行われます。国連の地域会議が開かれる全ての場所で、同時に地域のNGOフォーラムが行われるのは、歴史上まさに初めてのことのようです。以前、世界的なNGOフォーラムしか開かれていなかったときには、ほとんどの場合、国際的なNGOがリーダーシップをとり、国際的なNGOのリーダーは、ほとんどの場合、西側諸国から出ていました。しかし、現在は地域のフォーラムがあることにより、アフリカ、アジア・太平洋、南アメリカ・カリブ諸国、西アジアのリーダーも、西側諸国のリーダーと同じだけの発言力とリーダーシップを持つようになっています。

NGOフォーラムの目的は2つあります。ひとつは、国連が来年、北京で採択する予定の行動綱領に影響を与えることです。行動綱領は、非常に重要な意味を持っています。1993年の後、加盟国政府はもたれ残っている障害と、これを解消するためにとるべき行動に目を向けています。NGOのこれらの会議への参加が増えているのはこのため、つまり、このような政府に対するロビ

ー活動をするためです。第2の目標は、女性運動を強化することです。先ほど申し上げたように、地域レベルの準備を行い、5つの地域でNGOの活動グループを組織するというプロセスは、世界的な女性運動の強化につながります。

環境、人権、人口、雇用、平和など、多くの課題に直面する中で、女性たちは21世紀の世界がどのようなものになるのかについて、発言する場を求めています。女性NGOフォーラムに大きな期待が寄せられるのはこの点で、ここでは公正で、健全で、健康的な将来の世界とはどのようなものであるのかを定義することができるとです。私たちは、メディアを利用したキャンペーンを行う際に、誰もが使うことのできるテーマを選びました。そのテーマとは、「女性の目から世界を見よう」というものです。それだけでなく、皆さんがこのテーマをどのように使い、メディア・キャンペーンでどのように活かしていくのかは、皆さんの創造性に任せします。

女性の苦しみは、彼女たちだけの苦しみではなく、世界中の全ての男性、全ての女性、全ての子供の苦しみなのです。皆さんの正当な願いとエネルギーでNGOフォーラムを支え、同時に、皆さんの国の政府に対して私への支援を訴えてくださるようお願いします。

日本NGOの質問に答えて

(質疑応答の部)

・全員がワークショップを開く必要はありませんが、開こうとする場合は人々に参加したいと思わせる魅力的なものでなければなりません。ですから私はたくさんのグループが協力して、共同ワークショップを開くことを勧めています。

・多くの日本の旅行会社が私たちに電話をかけてきましたが、世界中でNGOや女性の問題に関わってきたとても多くの女性にベッドを提供しなければならないのです。ただ旅行したいというだけなら他の時期にお願いします。

・私たちは同じ問題を取り上げてワークショップや討論会の開催を要請しているNGOが少ないのを調べ、同じことを考えている他のNGOを全て記載したリストをお渡しする予定です。このリストには住所と連絡先の電話番号が書いてあるため、皆さんはお互いに連絡をとることができます。他の組織と合同することによって、北京に行く前にネットワークを作ることが出来るのです。中国との合同を考える場合には、中国が準備する全てのワークショップの調整を行っている中華全国婦人聯合会に直接手紙を書くことが最善です。

・登録と活動申請の締切りは1995年4月30日までです。登録と活動申請は全てニューヨークの本部で集中的に処理されます。登録や時間と会場の割当を希望する方は事

務局に手紙を書いて下さい。

・参加を希望する人は、登録用紙、50ドル、パスポートサイズの写真2枚を送る必要があります。私たちからは2通の確認証が送られます。そのうちの一通はビザの申請の際に中国領事館で見せるためのものです。もう一通は北京へ持っていき、それを見てフォーラムのIDパスを受け取ります。IDパスには写真が貼ってあります。これはIDパスであり、他の人に貸しては行けません。次に、あなたのホテルの登録用紙は、中国の組織委員会に直接送られます。しかし、中国の組織委員会は、私たちがあなたの登録を確認するまで、あなたが利用するホテルを予約しません。ですから、ホテルの部屋を確保してくれるという旅行会社がいたら要注意です。世間にはこの会議を利用して多額の利益を得ようと考えている旅行会社があります。気をつけて下さい。

・現在、登録申請は多くありませんが、登録用紙の請求は一日約100件きています。ですから、登録はおそらく今年の末頃には増えてくるでしょう。締切りは4月30日だからもう少し後でもいいだろうと考えないで、今、登録してください。

・登録の手続きがまとめて行われれば私たちは助かります。一人一人が手数料を払って送金するより、参加料をまとめて小切手を一枚だけ送ってくださる方が簡単だからです。

・このような催しには真面目なものとも楽しいものとのバランスをとることが大切です。たとえば、会議では毎晩、文化的な催しが開かれます。そして、会場がスタジアムになっているため、朝は軽いジョギングをします。フォーラムには女性がしていることを紹介する、様々なタイプのプログラムを取り入れています。

・NGOがとった方法の中で、成功したものは何か、また、失敗したものは何か。私たちは、人権、健康、メディア、融資、環境、新たな開発モデルなど、皆さんが取り組んでいる全てのことについて、分析と実践という2つの方法で話し合っていきたいと思っています。これによって、私たちがどの分野に影響を与え、どの分野には与えていないのか、そしてどのような方法を基本として次の女性運動を計画すればよいのかについて、理解できるようにしたいのです。ですから、もしできるなら、皆さんのワークショップや討論会を、このような枠組みに当てはめて計画していただきたいと思います。

・新聞記事を含む北京からのニュースは全てAPCから発信され、外にいる人も中で何が起こっているのかを知ることが出来ます。また、ビデオ会議の手配を進めています。これは指型のものになります。つまり、私たちはこのフォーラムを、女性が最新技術をどのように利用するかを示す場にしようと考えているのです。

・会議の期間中、歌の夕べを催します。ここでは、女性で作った歌なら、何でも歌うことができます。私たちはこれを録音して、女性によって作られた世界中の様々な曲が入ったテープを作り、皆さんにお届けします。この他にも、詩の夕べとダンスの夕べがあります。また、地域発表の夕べを2日間催します。既にアラブ、太平洋地域、カリブ諸国の女性が、地域発表をしたいと伝えてき

ています。そして、政治に関わる女性の夕べ、という特別の催しを行います。この催しには、政治に関わっている女性や、女性の政治家を招きます。このように、毎晩、様々な文化的行事が催されます。女性のための功労賞も設ける予定です。これは、生きている人と亡くなった人の両方を対象に、他の女性に変化をもたらし、その功績が認識されていない人に与えられます。つまり、有名になった人、無名人の人というのではなく、他の女性の生活に変化をもたらした人のための賞です。私たちは、世界中の国から10名程度を選びたいと思っています。また、国際女性コンサートも開きます。これは、世界中からトップクラスのアーティストを北京に招いて、6時間のコンサートです。皆さんが日本で最高の女性アーティストにこのショーのことを説明し、彼女の時間と才能を提供していただくことができれば素晴らしいと思います。たとえば、私たちはアメリカで、ホイットニー・ヒューストンとティナ・ターナーがコンサートに出演してくれるよう交渉しています。このように、皆さんが日本のトップアーティストを招くことができれば、コンサートは本当に良いものになります。

・ホテルの予約については、私たちはNGOフォーラムの参加者のための予約を、公式会議の参加者とは別にしています。公式代表団のホテルの予約は、私たちの予約とは別です。

・次に、交通機関についてお話しします。皆さんが北京の空港に到着すると、参加者のための専用経路が用意されているため、普通の旅客と同じ経路を通る必要はありません。NGOの参加者専用の特別の経路があります。それから、バスが用意されます。私たちは今、皆さんに色をお知らせして、その色によってどのバスに乗ればよいのか分かるようにする方法を考えてます。皆さんの滞在中は、10ドルを支払えば12日間、全ての電車やバスに乗ることが出来ます。また、主な全てのホテルからフォーラムの会場まで、1日に数回シャトルバスが運行されます。さらに、フォーラムの会場から公式会議の会場まで、所要時間約20分のシャトルバスもあります。このように、交通機関には問題がないと思います。

・フォーラムには、5か国語の通訳があります。6か所ほどの会議場に、スペイン語、英語、フランス語、アラビア語、中国語の通訳を用意します。小さなワークショップにまで通訳を置く余裕はありません。このため、これらの言葉を話さないために問題があると思う方は、ご自分で通訳の手配をしてくださるようお願いいたします。

・開会式は行われます。私たちが計画しているのは、メキシコ、コペンハーゲン、ナイロビでの会議の運営責任者を表彰するだけ、という非常にシンプルなものです。もちろん、モンセラさんも出席されます。次に、中国の方が演技をします。式の最後には、花火を打ち上げます。7万2,000人が参加できます。会場には、大きな建物2つあります。ひとつは7万2,000席の大きなスタジアムで、もうひとつは1万7,000席の体育館です。7万2,000席のスタジアムは、開会式と閉会式の両方で使われます。

(平成6年10月24日NGO部会主催「女性NGOフォーラム」について聞く会」における講演及び質疑応答を総経理府において仮訳・抜粋)

NGOフォーラムへの参加、 受入れ態勢が整った北京

国際婦人年連絡会(全国組織52団体加盟)事務局長 山口みつ子

去る8月8日から11日にかけて中華全国婦人聯合会に招かれ中村道子国際婦人年連絡会世話人一行5人で第4回世界女性会議の受入れ国、北京の準備状況を見聞する機会を得た。

私にとって3度目、9年ぶりの北京訪問であった。空港からハイウェイが整備され立ち上る高層ビルを見ているうち約20分で市内に到着した。

北京市インストリートの一連の建群内大通りに面した新しい婦人ビルは9分どり完成、既に3月末には婦人聯事務局は引越越し世界会議を取り仕切る中国組織委員会もこのビルに設置されている。[迎接 世界婦人大会北京招開]の大きな看板が婦人聯ビルの前を始め市内随所にかかれていた。

～ 中国組織委員会の受入れ態勢 ～

国連の決議を受けて中国国务院(政府)は1992年8月、組織委員会を結成した。現在、主席は彭佩雲女史(國務委員)、副主席は黃啓瑛女史(全国婦人聯合会副主席)外3名、徐志堅(主席(國務院副秘書長)が秘書長(事務局長)を兼任しており、約100人のスタッフが在る。組織委員会は大会委員会、宣伝動員委員会、NGOフォーラム委員会、安全警備委員会、行政財務委員会の5つの専門委員会と総務部で構成されている。

周知のように世界会議は2つあり政府代表による政府会議は9月4日から15日まで、国際会議センターで、NGOフォーラムは(民間の団体と個人)は8月30日から9月8日まで北京労働者スポーツセンターで開催される。組織委員会は世界からの参加者を政府代表団4000人、ジャーナリスト3000人、NGO 20000人、中国内5000人を見込み、これまでの世界女性会議では最大規模になりそうである。

～ NGOフォーラムの準備状況 ～

組織委員会のNGOフォーラム委員会は総合連絡部、フォーラム組織部、研修部、新聞情報部、会場設営部、見学活動部、受付招待部、行政財務部が運営に当たる。

フォーラムの会場は北京労働者スポーツサービスセンター全棟が使われる。8月30日の開会式は40ヘクタールの広さで7万人が入るスタジアムの一隅にステージが設置される。広い道路一つ隔てた体育館には1万3千人が収容できる。ここでワークショップ(分科会)や展示会、各種イベントが行われる。500人が入る会議場が5、20～

60人の会議場が60あり、9日間で1100から1700の分科会の開催が可能である。野外にはテント張30基、パラソル1000基も用意するという中国ならではの大きな施設が用意される。各会議室にはOHP、ビデオ、市内電話をはじめ通信、生活、保育、障害者、宗教活動の各施設や美容室、ビジネスセンター、遺失物保管センターも設置するとのことだ。ショッピング通りを作り中国各地の農村女性が参加し工芸品の実演もある。飲食場所は豊富にありトイレも50人に1つは設置する予定というところであった。政府会議の模様はNGOフォーラム会場にテレビで中継される。

さて、宿泊施設だが、外国人のため会場周りにホテル等2万ベットの用意される。値段は1人につき1つ星20ドルから5つ星 260ドルまであり、また、分科会が開かれる体育館内には5ドルから15ドル(1室4人)のホテルもある。分科会の会場やホテルの確保はニューヨークにあるNGOの計画委員会に参加登録を各自が済ませて登録確認を受けとってから中国組織委員会に申し込みなければならない。観光希望の場合も中国指定の旅行社に限られ14のコースが用意されている。ホテルの申し込み締切りは1995年5月31日だが、3つ星以上は3月31日までに申し込みれば20%の割引きがある。体育館内のホテルをみたが、ツインルームはバ

ス、トイレ付きでビジネスホテル並みである。大部屋は室外にシャワーとトイレがある。会場に近いし、各国の人々と起居を共にするのによいと思った。交通機関にもふれておこう。北京空港から開会前後の数日間は世界会議専用の迎えのバスが出る。タクシーもあるが、10ドル支払えば、北京市内の全てのバス、トロリー、地下鉄に乗れるバスもある。中国人の生活の一端に触れる機会でもある。

～ 一人一人の主体的参加 ～

中国は改革・開放を目指し社会主義経済から市場経済へと急速な移行をしている。婦人聯も建国の一翼をになっていることが、北京会議への周到な準備から伺われた。市内中心地のモダンなビルの傍らには依然として日干し煉瓦の屋根の傾いた住居が目につく。このコントラストのように来秋、世界の女性たちが集うのだ。モンゲラ国連世界女性会議事務局長が昨年来日の際、[21世紀のビジョン]に女性の視点と反映させること。その行動に社会全体を巻き込まねばならない]と述べこれまで以上にNGOの役割の重要性を強調した。中国側も北京会議が女性の「自尊・自立・自強」の場になることを期待していた。NGOフォーラムは国家間利益を主張する会議とは異なり一人一人の誠実な交流にある。テーマを十分に練って積極的な意見交換をしたい。途上国からの参加を助けるため、日本のNGO及び政府の拠出金はフォーラムへの重要な活動となる。

NGOフォーラム受付始まる

このほど総理府において、「女性NGOフォーラム'95北京」に参加するための一般情報、登録申請書及び活動申請書を入手しました。概要は以下のとおりです。

(登録手続き)

- ・登録すべき人—フォーラムに出席を希望する全ての人、1995年4月30日までに、個々に登録しなければならない。
- ・方法—登録申請用紙に記入の上、女性NGOフォーラム事務局宛てに、50米ドルの登録料及びパスポートサイズの写真2葉とともに郵送しなければならない。
- ・入国査証(ビザ)—事務局は、登録確認書を2通発行する。1通はビザ申請用、1通は北京に持参し身分証明パスと引き換える。(ホテルの予約および旅行)
- ・全てのホテルの予約は、北京の中

国組織委員会により手に取り扱われる。フォーラムに予約していなければ、ホテルの予約はできない。

- ・方法—ホテル宿泊申込用紙に記入の上、1995年5月30日までに、組織委員会宛てに送付しなければならない。

(フォーラムの活動)

- ・申請方法—フォーラムにおける活動を提案する全ての団体は、活動申請用紙を登録申請書とともに、女性NGOフォーラム事務局宛てに1995年4月30日までに提出しなければならない。

これらの書類については、既に、都道府県・指定都市女性行政担当課、全国組織の婦人関係団体始め関係機関・団体に配布しているので、御希望の方は在任の県(市)の女性行政担当課へ問い合わせてください。なお、WINET-BBSにおいても随時情報を提供しています。

第1回東アジア女性フォーラムについて

東アジア女性フォーラム代表 中村道子

来年北京で開催される、第4回世界女性会議とNGOフォーラムのための準備会議（国連による政府間会議とNGOによる民間会議）が世界各地で盛んに行われています。その一つとして、昨年11月16-20日に国連アジア太平洋経済社会委員会(ESCAP)とフィリピン女性の役割に関する全国委員会の共催で「女性と開発に関するアジア太平洋NGOシンポジウム」がマニラで開催されました。その折、東アジア部会で1994年10月に日本で東アジア女性フォーラムを開催することが決まりました。

本年5月14日に漸く実行委員会を発足させ、多くの方々と団体の賛同を得て、去る10月20、21、22日に本会議を神奈川女性センターで行い、東京シンポジウム（日仏会館）及び札幌、東京多摩、名古屋、京都、大阪、堺、倉敷、広島で23、24、29日にそれぞれ報告会を終えることができました。

海外からは、中国14、韓国45、台湾16、香港8、モンゴル7、マカオ4計94名の他、ロシア（ハバロフスク）から2名の参加を得ました。北朝鮮にも呼びかけましたが、色々の事情があり、とうとう参加できませんでした。日本は本会議、東京シンポジウム合わせて、全国から1200-1300人集まりました。

会議では国・地域のレポート、分科会報告と行動計画の採択が行われました。次の5つの分科会と計16のワークショップにおいて、行動計画案に入れる項目が審議され、まとめたものが、118項目になりました。

1. 開発と女性 ①女性と労働、②農村女性、③環境と公害、④ODA・企業進出・債務問題
2. 女性と政治 ①中央・地方での政治参加、②市民運動、③女性のための法律
3. 女性の権利 ①女性への暴力、②人身売買と売買春、③性と生殖の権利、④家族と高齢化社会、⑤マイノリティ女性
4. 女性と文化 ①教育、②メディア
5. 女性と戦争・平和 ①従軍慰安婦問題などの戦争責任、②核・基地・PKO

本会議で採択された行動計画の前文は東京シンポジウムでは「東アジア女性宣言 21世紀に向けて」として発表され、採択されました。この宣言と行動計画は世界会議で採択される予定の「行動綱領」の審議段階の資料として、国連に提出いたします。

参加者の熱意により、次回は1996年にソウルで開催したいという希望が出て、東アジアの女性達の交流と連帯は、この第1回に止まらず、'95年の北京会議以後も継続される見通しになりました。

この東アジア女性フォーラムのために、'95北京NGOフォーラム事務局（ニューヨーク）のアイリーン・サンチャゴ事務局長が、過密な日程の合間をぬって、東京シンポジウムに出席し、フォーラムを評価し、北京に向けて一同を激励されたことを附記いたします。

姉妹を北京に送ろう

1995年8月30日から9月8日まで、今世紀では最後の女性NGOフォーラムに3万人の女性が集合するでしょう。私たち女性は、そこで、第4回世界女性会議において私たちの政府へのロビー活動をするでしょう。また、私たちの多様性と主張を喧伝するでしょう。私たちは、ワークショップやパネル、展示、映画祭、音楽会、絵画展覧会、及び売店を組織するでしょう。私たちは共通の立場を探し、国際女性運動の再活性化を図るでしょう。あらゆる女性の声が、その物語や経験、希望や要求が、聞き届けられなければなりません。「姉妹を北京へ！」は北京へ行くための資金がなく、しかもその声を聞く必要のある女性たちへの旅行奨学金のための募金をする、女性NGOフォーラムの事業です。私たちの世界的なキャンペーンに参加しましょう！更なる情報については、以下に連絡してく

ださい。

SEND A SISTER TO BEIJING
CAMPAIGN,
NGO Forum on Women,
211 E. 43rd St.,
Suite 1500, New York,
NY, 10017 USA

NGO Forum on Women '95 Bulletin(
女性NGOフォーラム'95北京の広報
紙)No.4, June/July 1994 から



女性NGOフォーラム北京'95への
ジャーナリストの参加許可について

(国連プレス・リリースから)

1995年の北京での女性NGOフォーラムを取材したいジャーナリストは、国連広報部(UNDP)を通じて公式の報道者証明書を得られるでしょう。

そのためには、1995年9月4日から15日まで行われる第4回世界女性会議の取材を希望する方と同様な手続きをとらなければなりません。UNDPが発行する報道者証明書は、両方の行事に有効です。

世界会議とフォーラムへの参加許可の申請書は、1995年3月に、下記から得られるでしょう。

(Ms.) Sonia Lecca
Department of Public Information
United Nations--Room S-250
New York, NY 10017, USA
Tel.: (212) 963-6934
Fax: (212) 963-4642

国連の証明書を入手次第、査証申請のために、域内の中国領事館にコンタクトをとってください。査証の申請には申請書に記入し、旅券及び写真一葉を提出しなければなりません。



頌
春
'95

A HAPPY NEW YEAR

1995.1.1



OFFICE 〒113 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学文学部社会学研究室

今年はまだです♡♡♡♡ 上野 千鶴子

ありがとうございます

お慶様で31歳になりました。

1年に10年分の変化——激動の今だからこそ

静かに知恵を練りたいと希っています。

ご清祥を心こめて祈り上げます。

1995年 元旦

創造力の銀行 BOC 〒160 東京都新宿区新宿1-9-4
☎03-3354-3941 FAX 3354-9014

東海BOC 〒460 名古屋市中区栄3-28-2
☎052-251-9064 FAX 261-8778

企 画
調 査
編 集
速 記
撮 影
デザイン
翻 訳
印 刷
出 版
そ の 他

明けましておめでとう
ございます

猪突猛進はやめて

ゆっくり歩かなきゃ 見えないものがある

ちょっと立ち止まらなければ

見失うものがある

混迷する世の中で 大きな流れを見極めて

一つ深呼吸してみたいと思う

無事のありがたさをかみしめるこの頃です

皆様のご多幸をお祈りいたします

1995年 元旦

石原量子

新年あけまして

おめでとうございます

昨年は政治経済ともに激動の一年でした
私方 多くの皆様のお支えによつて一年を過ご
させて頂き感謝致しております
今年も何がおきるのか不透明な一年になると
予想されますので 変わらぬお力ぞえをお願い
申し上げます
皆様の御健康と御多幸をお祈り申し上げます
一九九五年 新春

栗

原

君

子



おめでとうございます

ご健康とますますのご活躍を
お祈り申し上げます。

保科朋子

あけ
おめでと
い
は
け
子



迎春

お健やかに佳き新春をお迎えのこと
お慶び申し上げます
本年も宜しくお願い申し上げます
平成七年 元旦



パ
ー
バ
ラ

春賀

何だか悲苦しいと目を凝ら
せば、冷静な目と熱い心と持っ
て行動する人々と奇人・変人扱い
して切捨てる人々「常識人」の何と
多いことでしょう。

さて今年、奇人・変人と言われ
る人との出会いを大切にしなと
祈っています。

今年、ヘンジンにヘンジンと、いじわる退役は徹しいいナヒ。
ふは、脱走。仲々あるし、ひたすら処女に男をよめよう。

畠山 裕子

女たちの情報紙

ふえみん

f e m ♀ n

婦 人 民 主 新 聞
WOMEN'S DEMOCRATIC JOURNAL

世界の女性の連たいを！

婦人民主クラブ

ふえみん・婦人民主新聞

東京都渋谷区神宮前

三ノ三十一ノ一八

〇三・三四〇二・三三四四

励

一九九五年 正月

露

いよいよ励む年です。私は国会を
いきいきと聞かれた場にするために励みます。
御健勝をお祈りいたします。

了
申しあけよう

土井 にか子

〒660 西宮市津門橋町十一の二 ヤマトビル二〇六号
〒100 東京都千代田区永田町二の二の二
衆議院第二議員会館三〇〇号室

賀正

いつも楽しい問題にやりこんでゆく。
あごうの姿勢を高く評価して
います。今年ものりすに改修り
すいよう

一九九五年

えん

斎藤節子

あけまして

おめでとうございます

お健やかに新春をお迎えのことと存じます。
昨年は『遊ぼう』との計画でしたが、ゆとりの時間は
なく従来以上に多忙な1年でした。

プロカメラマンの次男が独立と共に、私の仕事の後
継者を引き受けてくれましたので、これで私も『遊べ
る』ではないかと期待しています。

本年もあたたかいご指導を下さいますようお願いい
たします。

年の初めに平素のご厚情に感謝し、みなさまのご多
幸をお祈り申し上げます。

1995年元旦

澤田和子

会社 〒533 大阪市東淀川区東淡路1-5-2-443
有限会社 芳泉企画 TEL 06-322-2203
(出版・宣伝企画・損害保険) FAX 06-320-3413

あけまして
おめでとうございます

新しい年を迎え皆様のご健康と
ご幸福をお祈り申し上げます
平成七年元旦

〒890

鹿児島市荒田二丁目十三の五

岡元内科小児科

岡元

太閤節



☆昨秋ドイツ・エカンフェルデ市で開催いたしました
アルブレヒト由子招請「第1回 日本女性の手芸作品
展示即売会」は、市長夫妻、独日協会及びシュレスビ
ック・ホルシュタイン州議会をはじめとするドイツの
方々のご協力のもとに成功させることができました。
ご支援ありがとうございました。

1995年初春

高橋ますみ

〒460 名古屋市中区栄3-28-2

ウイン女性企画

(Womehs International Network of Nagoya)

TEL(052)251-9064 FAX(052)261-8778

〒459 名古屋市緑区大高町伊賀殿107

(自宅) 高橋学習センター・灰降窯

TEL(052)622-4926 FAX(052)624-6950

賀正

乙亥

乙女的心愛らねど

亥かんせん層一巡り

あとはどうなるこうなると

好きなこととして生きるだけ

一九九五年元旦

浅野美和子

賀

1995



インドの人形
INDIA DOLL

岡田黎子

恭賀 新禧

新年のご挨拶を申し上げ、一層のご清祥を祈り上げます。

昨年ご秒読みの日々を重ね、八方ご無沙汰お詫びします。

ことしこそは真つ白な時間を持ち、いろいろな想いを練

り直したいと希っております。

一九九五年 元旦

あこがし新集部

斎藤千代

謹賀新年

本年もどうぞよろしく。



福田光子



金が信念

V・S

飢餓率急



一九九五

豊かなお正月をすべての人々へ・・・
豊かで優雅なお正月を誰でもが迎えられてよい筈です。その為にも、

- ① 真に平和で差別のない自由な社会である事。
・非武装中立の日本を。(脱原発・非武装・不戦・非核・護憲『改』憲も)・反安保・反基地)
・良心の囚人の釈放、全ての政治囚に公正で速やかな裁判、全ての囚人への「請肉・死刑」の廃止を
・いらんぜよ天皇制、指紋押検の廃止、反女男差別、反部落差別、反「障害者」差別。

- ② 搾取がない社会である事。
・むだに汗して働く者が主人公である社会を。
・ゴミ・エネルギー・資源を考えたら、計画経済を0
等が、とりあえずの最低条件です。そんな社会を目指して着実に学び、そして今の社会・生活のあり方を見直し、実践行動する一年にします。
スィング グローバル(地球規模で考え)
タクト ローカル(足元で実践) に挑戦。

「はする」の重大ニュース '94年

- | | | | |
|---------|------------------------------|---------|-------------------|
| 1/6~20 | 反核・平和の旅(広島・長崎) | 1/29~30 | 同級会(ホラル御所山) |
| 3/2~13 | 雪中幻灯会(雪壁スクリーン) | 10月~ | EM(有用微生物群)取組開始 |
| 4/6 | アースライ in OBANAZAWA | 1/3~3/1 | 夫婦ベッせい(別棲)実現 |
| 5/3 | 徳島湖一周花笠マラソン
3Km 11分54秒 2位 | 1/4 | 東テモール講演会 |
| 5/25~26 | 人肉バンザイ祭りⅢ | 1/30・17 | 模擬裁判(夫婦別姓)原告一部勝訴! |
| 8/7 | フリーマーケット in おはね | | |

新年明けましておめでとうございます。

ペル一人労働者への生活支援が入管法の「不法就労助長罪」に問われている青柳行信さんの公判も既に15回を迎えました。今までの公判でペル一人労働者と彼等／彼女等を雇用していた企業の橋渡し、そしてさらには入管行政の後始末的なことまで青柳さんがしていたことなど、青柳さんの活動の正当性は十分すぎる位立証してきたはずだと、支援者の立場から私は考えています。

しかし、現在の日本の裁判の現状を考えると油断はできません。そこでこれからも皆様の御支援を宜しくお願い致します。

今後の公判日程ですが、2/13 10:00～17:00、3/27 10:00～16:00 となっております。場所は福岡地裁301号法廷です。

詳細につきましては、下記の連絡先までお問い合わせ下さいませ。

谷 和実
連絡先

青柳さんへの不当弾圧を許さない会

(住所) 福岡県福岡市博多区美野島2-5-31
美野島外国人司牧センター内(☎812)

☎ 092-431-5709(TEL、FAX共用)

新春のお慶びを申し上げます。

いつになく暖かな冬、いかがお過ごしでしょうか。

提訴から1年3ヵ月。昨年中は、傍聴やカンパなど、色々なご支援をいただき、本当にありがとうございました。

本年も、どうぞよろしくお願いいたします。

「みるくうゆプライバシー裁判」も次回からいよいよ証人尋問に入ります。国家や行政が考える「人権やプライバシー・思想信条の自由」の本音をあらわにするような質問、また、当たり前の感覚からの警察への素朴な疑問など、一緒に考えて下さいますか。この裁判への感想や、疑問でも結構です。こんなこと、警察官に言いたい、聞いてみたいと思うこと。裁判長への言葉。e t c . . . 何でもお聞かせ下さい。

中盤に差し掛った裁判、ここら辺でもう一度しっかり考えてみたいと考えています。そこで、貴方のお知恵拝借。

どうかご協力ください。次回、ガサごそ倶楽部の編集会議を予定している、1月15日頃までに、ご返信ください。




19 ♡ 95

去^{（雲）}年よりつづく。かしこい^{（顔）}たちが
 いなくなった時、^{（地球）}地球は すい分 汚れ
 ていましたが、その後 少しづつ
 キレイになってきました。 空^{（空）}気も澄
 んできました。 小川 には めだかも
 泳いでいます。…… でも あたりを
 見渡すと ^{（ゴミ）}ゴミだらけです。 そして
 はるかかなたに 原子力発電所
 が……。

(次号につづく)

〒400 ☎ 0552-33-2380
 山梨県甲府市新田町
 17-15

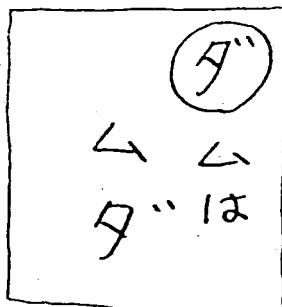
小 木 曾 泉 



クマ(5才) 食気(4才) キャロル(4才)

不良おばさん 甘ったれ いたずら女良

正月かるた



◆おめでとう！と言うよりも、うっ積する思いを語り合いたい新年ですが、ま、お正月くらいは、リラックスして過ごしましょう。

思えば去年の新年は小選挙区制反対の最高潮。一月末の大逆転の歓喜が一夜にしてくつがえされたことをにがく思い出します。あれから、予期したとおりの濁流の渦になりました。世紀末の日本が信義と礼節の国になるのは、いつの日でしょう。

でも、ここで呆然自失したりあきらめたりすることは、現状を追認し、加速させること。長年女たちが積み上げてきた知恵や力をじっくり練り直し、アツと驚くようなことを、一度はしたいものですね。

◆さしあたり四月の地方選。自治体の女性議員はわずか二%。国政よりも低い率です。心ある人を立てて応援をしたいと思っ

ています。推したい方、立ちたい方、お知らせください。

◆六月の参院選は、女性進出のチャンスです。この状況もお知らせください。誌上でご紹介します。

◆昨年の東アジア女性フォーラムは、ともかく無事に終わってホッとししました。初めての大規模な国際会議でしたが、わたちのネットワークで推進できたことを、うれしく思っています。

◆八月末からは北京会議。熱い思いが、へあごらにも数々寄せられています。ワークシヨップは、東京は、「戦争」と「情報」をテーマにする予定。皆さんのご予約も教えてください。

◆「自立の心理学教室」を中心に、「戦争」と「いじめ」の構造を考えていくつもりです。

「自立の心理学」、一月は六日（金）夜七時から二時間ほど。場所はへあごらです。地下鉄

丸の内線「新宿御苑前」駅（大木戸口方面）から徒歩一分の、中公ビル（三階）です。いつも、しま・ようこさんを軸に、楽しい時間を過ごしています。初めの方もお気軽にどうぞ。

◆いま政治家たちは政策そっちのけで、次の選挙対策に右往左往。集合離散を繰返しています。戦後五十年、わたちが蓄えた知恵を政策に反映させる方法を論じたいと、一月から連続学習会「私たちの提言」を、同じ思いのわたちで開くことにしました。第一回は「いじめから見えてくるもの」、パネリストは新美みつ子、外口玉子、駒野陽子の皆さん。一月十三日（金）六時―八時。会場は都営地下鉄新宿線曙橋（あけぼの橋）下車二分の新宿区女性センターです。ぜひお出かけください。

ではよい一年をお祈りします。

〔新入会〕

一人で本を読んで勉強することに限界を感じた頃、〈あこら〉の存在を知り、ぜひ仲間に入りたくまりました。

夫が経営するファーストフード店で働きながら、法女性学の勉強会に参加しています。平日の午後三時以降か日曜なら活動できます。

(松山市 石崎 幸)

〔あこらへの注文〕

◆いい雑誌だから、注文も多いと思いますが、そんなにいっぱいできません。
〈あこら〉でなければ、というのが一点あれば、私は満足です。総合誌じゃないんですもの。キンキンにがんばらず、長く続くようにゆるやかな態度でおやりなさいませ。

(お名前お知らせください)

*

◆「あこら」が社会党の広告塔にはならないようにしてください。私は日本共産党支持者の日教組組合員です。

(福岡 諸藤和司)

〈あこら〉は、どの政党ともいつさい関係はなく、特定の政党を支持したことはありません。ただ、非武装・中立は、私どもの一貫した趣旨ですのでその主張は掲げ続けています。

小選挙区制の危険性は、マスメディアが全く指摘しないので九三年の七月からキャンペーンを続けました。政党で小選挙区制反対を打ち出したのは共産党だけだったと思います。とすると〈あこら〉は「共産党の広告塔になった」ことになるのでしょうか？

私どもは、「何々党がこう言ったから」ではなく、「フェミニストはこう考える」ということを判断基準にしています。

(あこら編集部)

*

◆子どもたちの自死、消費税の一方的引上げ、国家補償を認めない援護法の成立、原発の乱立……私たちの生活のひとつひとつが、政治と直結していることを身にしみて感じる今日、〈あこら〉がもつと生活と政治を直結させていたきたいと希います。

(広島市 畠山裕子)

*

◆マスメディアが言わないこと、しかし、いま一番大切なことを、きちんと伝え続けている「あこら」が好きです。その姿勢を大切に。(東京 今 ふみ)

“北京”が鳥取に翔んできた ●発行 1995年 1月31日

●編集 あごら鳥取

●発行所 BOC出版部 〒160 東京都新宿区新宿1-9-4-303

●TEL 03-3354-3941 ●FAX 03-3354-9014 ●振替00100-0-5264

●発行人 あごら企画会議 定価883円(857円+税26円)

この ひろい宇宙に
たった一つの地球

その 大きな地球に
たった一人のわたし
そして あなた

かけがえのない地球
かけがえのないわたし
かけがえのないあなただから
たいせつに たいせつに しよう
あなたも
わたしも
地球も

たった一度きりの人生だから
思いきり
のびやかに生きよう

だれもが だれをも
ふみしだくことなく
胸の底まで深く息をし
ああ 生きててよかったねと
ほほえみあえる地球にしよう

へあごら
人と人の出会うひろば
へあごら
人と人の共に生きるひろば